

第1回 有識者等懇談会（細河地域）議事次第

日時：7月25日（火）13時半～16時半

場所：池田市上下水道部庁舎3階研修室

- 1 「テーマパーク構想」概要説明
- 2 懇談会出席者の紹介
- 3 当懇談会の進め方について
- 4 事前アンケートの概要紹介
- 5 各テーマ別ディスカッション
テーマ①：細河の自然を活かした施策
テーマ②：古民家・廃校を活用した施策

小休憩

- 6 テーマ③：地域・学生・若者と連携した持続的な施策
- 7 その他テーマのディスカッション
- 8 本日のまとめ・次回に向けての課題共有

以上



第1回有識者等懇談会 (細河地域)

有限責任監査法人トーマツ
2017年7月25日

本日のアジェンダ

	アジェンダ		想定時間
1	池田市よりご挨拶・懇談会の概要説明		10分
2	懇談会出席者の自己紹介	出席者各位	10分
3	懇談会の進め方	トーマツ	10分
4	事前アンケートの回答紹介	トーマツ	15分
5	テーマ①のディスカッション	全員	30分
6	テーマ②のディスカッション	全員	30分
休憩			5分
7	テーマ③のディスカッション	全員	30分
8	その他テーマのディスカッション	全員	20分
9	まとめ・次回に向けての課題共有	トーマツ	20分
		合計	180分

有識者等懇談会の各回の目標地点について

第1回懇談会

目標地点: テーマパークの素材を数多く引き出す

今回の目標地点

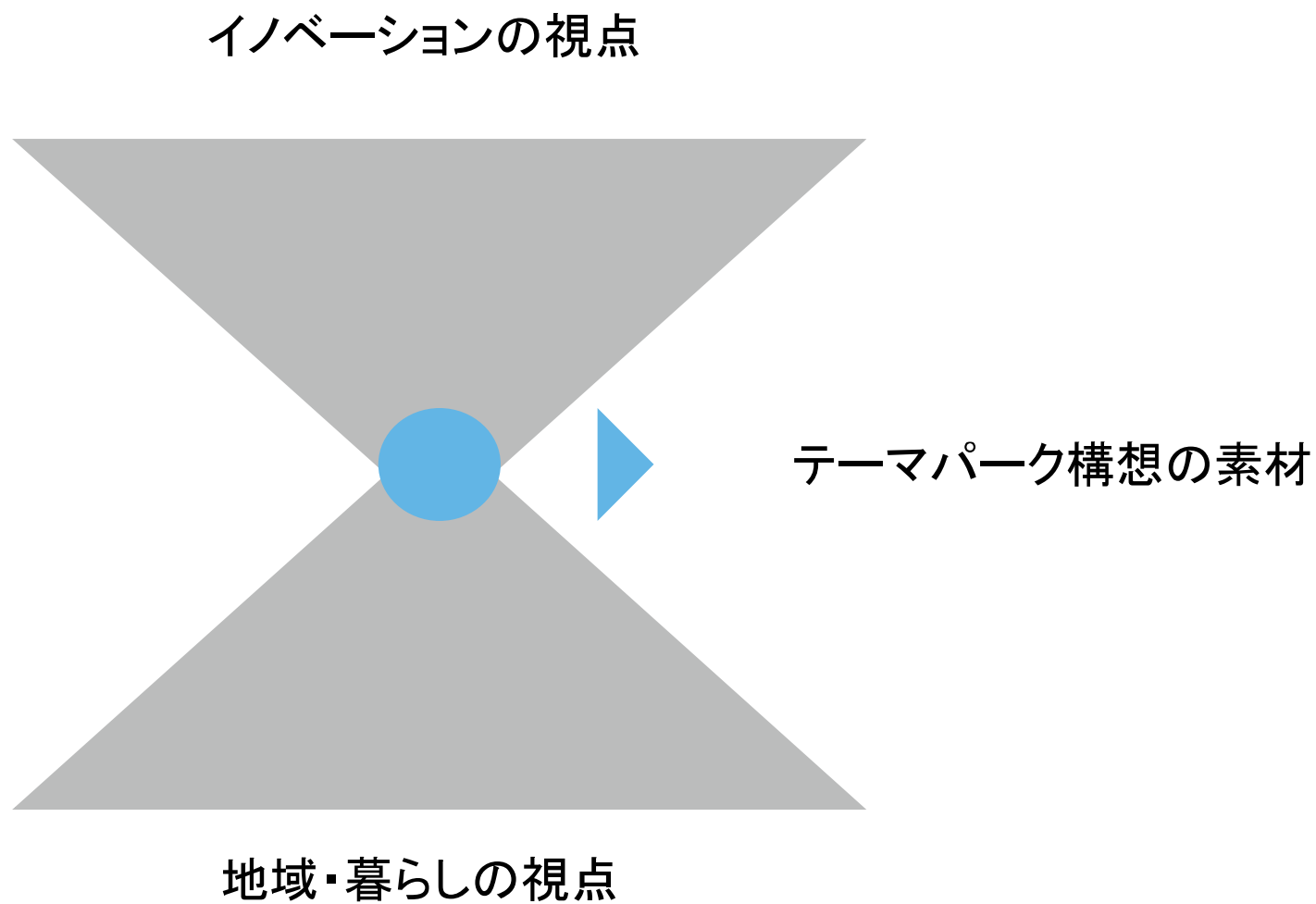
第2回懇談会

目標地点: 地域プランに関連づけたアクションプランの素材をピックアップ

第3回懇談会

目標地点: 各地域アクションプランの確定

テーマパーク構想の素材とは？



事前アンケート結果について 1/4

細河地域の強みと取り組むべき課題について主な内容は以下のとおりです

細河地域の強み

豊かな自然

地域コミュニティ

都心部に近い立地

細河地域の取り組むべき課題

細河小学校の活用

園芸センターの活性化

後継者育成

交通の利便性

事前アンケート結果について 2/4

その他アンケート項目について主な内容は以下のとおりです

植木と自然に関連した施策

レクリエーション施設

細河小学校を利用した道の
駅・ショッピングモール

おとなの園芸学校

田んぼを利用した
アトラクション

学生等と連携した持続的施策

園芸等研究施設の展開

グルメイベント・自然体験等

学生等との連携

(授業の中に自然との接点を増やす)

細河小学校を活用した
アトラクション

事前アンケート結果について 2/4

その他アンケート項目について主な内容は以下のとおりです

交通の利便性向上

周辺道路整備・鉄道整備

乗合タクシー・コミュニティバス

カーシェアリング

その他ご意見欄

植木産業の活性化

地域活性化のための資金確保

事前アンケート結果について 4/4

テーマパーク構想のテーマについて主な内容は以下のとおりです

細河地域の想定テーマ

- ◆学生の町
- ◆植木や野菜等、農作物の活性、体験型農業
- ◆都会と田舎のまんなか
- ◆自然、植木と教育の融合された町
- ◆大都会に近い便利な田舎
- ◆細河小学校の利用

キーワード

自然・学生・植木・農業・細河小学校

細河地域での議論にあたってのキーワード

地域資源・地域課題
(例)

植木産業

地域リーダー

古民家・廃校跡地活用

自然体験
(五月山含む)

交通の利便性向上

テーマパークを考える
上で意識したい用語
(例)

学生との交流

域外の大企業 &
ベンチャー企業と
の連携

イノベーション・未来・夢

ディスカッションテーマ①

細河の自然を活かした施策

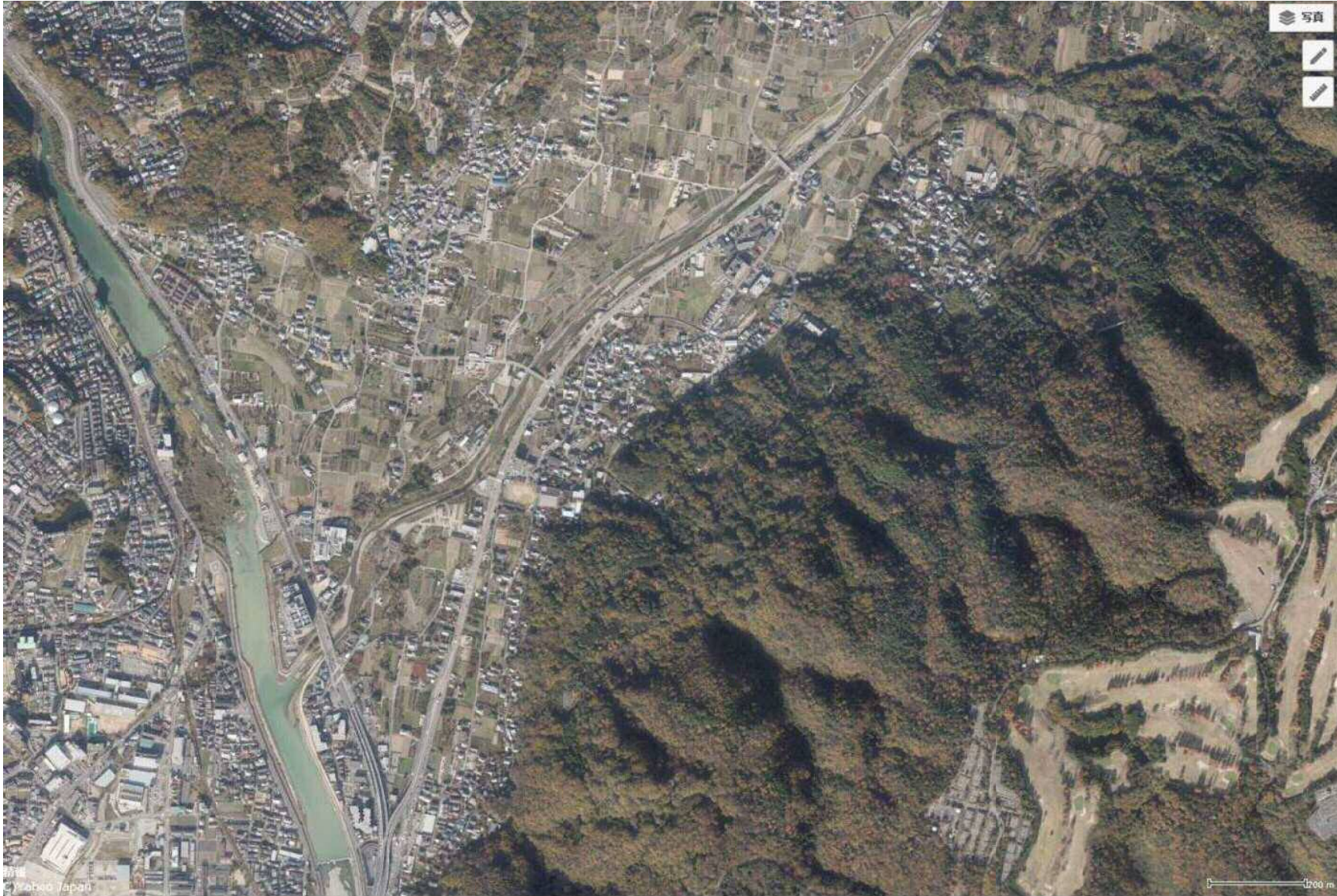
ディスカッションテーマ②

古民家・廃校を活用した施策

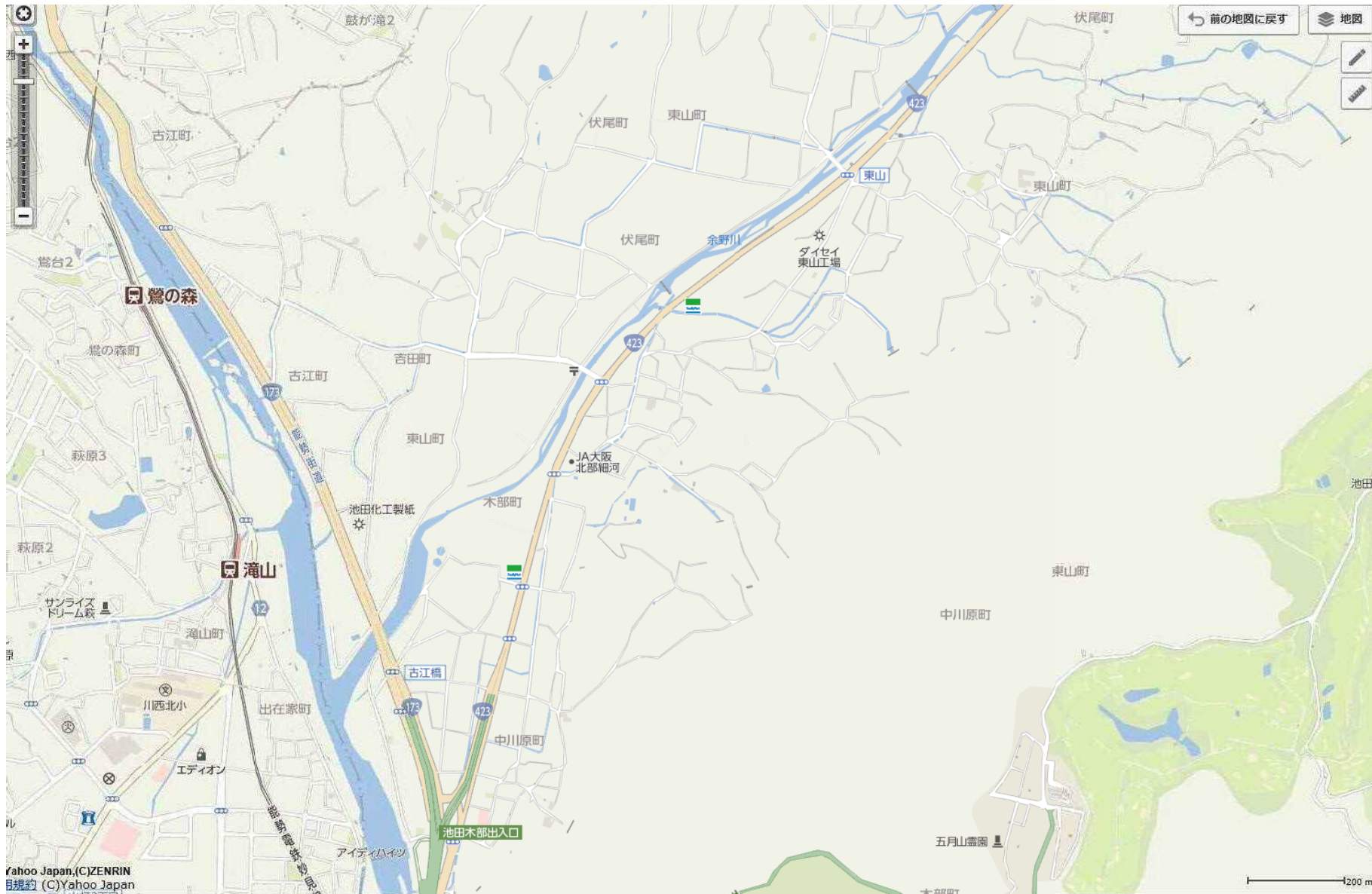
ディスカッションテーマ③

地域・学生・若者と連携した持続的な施策
(教育に関連した施策を含む)

ご参考: 細河地域周辺地図



ご参考:細河地域周辺地図





デロイト トーマツ グループは日本におけるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(英国の法令に基づく保証有限責任会社)のメンバーファームおよびそのグループ法人(有限責任監査法人 トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人 および DT 弁護士 法人を含む)の総称です。デロイト トーマツ グループは日本で最大級のビジネス プロフェッショナル グループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査、税務、法務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザー等を提供しています。また、国内約40都市に約9,400名の専門家(公認会計士、税理士、弁護士、コンサルタントなど)を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト(www.deloitte.com/jp)をご覧ください。

Deloitte (デロイト) は、監査、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザー サービス、リスク アドバイザー、税務およびこれらに関連するサービスを、さまざまな業種にわたる上場・非上場のクライアントに提供しています。全世界150を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ、デロイトは、高度に複合化されたビジネスに取り組むクライアントに向けて、深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスを Fortune Global 500® の8割の企業に提供しています。“Making an impact that matters”を自らの使命とするデロイトの約245,000名の専門家については、[Facebook](#)、[LinkedIn](#)、[Twitter](#) もご覧ください。

Deloitte (デロイト) とは、英国の法令に基づく保証有限責任会社であるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド (“DTTL”) ならびにそのネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびその関係会社のひとつまたは複数を指します。DTTL および各メンバーファームはそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTL (または “Deloitte Global”) はクライアントへのサービス提供を行いません。Deloitte のメンバーファームによるグローバルネットワークの詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、その性質上、特定の個人や事業体に具体的に適用される個別の事情に対応するものではありません。また、本資料の作成または発行後に、関連する制度その他の適用の前提となる状況について、変動を生じる可能性もあります。個別の事案に適用するためには、当該時点で有効とされる内容により結論等を異にする可能性があることをご留意いただき、本資料の記載のみに依拠して意思決定・行動をされることなく、適用に関する具体的な事案をもとに適切な専門家にご相談ください。

第1回 有識者等懇談会（細河地域） （議事要旨）

日 時：平成29年7月25日（火）13：30～16：30

場 所：池田市上下水道部庁舎3階研修室

出席者：テーマパーク構想ディレクター 西島清順、堀内健二

地域住民等 6人

池田市 倉田市長、藤田副市長、総合政策部長、環境部長、都市建設部長、市民生活部長、
管理部長、教育部長

1. 池田市より挨拶・懇談会の概要説明

2. 倉田市長より挨拶

3. 「池田のまち みんなまとめてテーマパーク構想」の概要説明

4. 懇談会出席者の紹介

5. 懇談会の進め方

- ・現段階では3回の懇談会を予定。今回はその1回目。
- ・1回目は発散フェーズ。テーマパークの素材を数多く引き出すことが目標。
- ・テーマパークの素材には、1つ目にイノベーションの視点、2つ目に地域暮らしの視点が重要。両視点の接点を多く出してもらうことが目的。

6. 事前アンケートの回答紹介

○強み：豊かな自然、地域コミュニティ力、都心部に近い立地

○取り組むべき課題

：旧細河小学校の活用、細河園芸センターの活性化、後継者育成、交通の利便性

○植木と自然に関連した施策

：レクリエーション施設、おとなの園芸学校、旧細河小学校を利用した道の駅・ショッピングモール、田んぼを利用したアトラクション

○学生と連携した持続的施策

：園芸等研究施設の展開、グルメイベント・自然体験等、旧細河小学校を活かしたアトラクション、学生等との連携（授業の中に自然との接点を増やす）

○交通の利便性向上の施策

：周辺道路整備・鉄道整備、乗合タクシー・コミュニティバス、カーシェアリング

○その他：植木産業の活性化、地域活性化のための資金確保

7. テーマ①「細河の自然を活かした施策」のディスカッション

<意見>

◇総則的意見

- ・細河コミュニティの中で市民農園（農業体験）を担当し、観光農園で摘み取りをさせていただいている。小学生を対象に食育に資する生産をさせてもらっている。
- ・お米を植えたいというニーズやカモを飼いたいとニーズに応えている。観光農園という形で細河地域には水田もあるので、カモを育て、子供たちに遊びながら食育を学んでもらえたらという意味で進めていきたい。
- ・米は副産物、販売はゼロ。芋を植えて、管理をしながら、芋掘りをして、カモの餌やりをして、楽しく遊んで1日が終わる。こういう取組が増えていけば、活性化に繋がる。カモに関しても最終食べることで、池田市の一つの名物として発展していけば一番だと思う。
- ・お金の問題も踏まえ、地域の協力を得て、進めていけたらと思う。
- ・コミュニティに携わらせていただいて50年。生まれも育ちも細河地域なので、自然の中にいるという感覚がなかったが、ここ最近バーベキューなどでたくさんの人が遊びにこられて、魅力があることを実感している。
- ・以前は、自然に虫が飛んでいたり、桜が咲いたりしていたが、最近はコミュニティが手をかけており、自然に携わるほど労力や費用がかかる。
- ・前提として3つのテーマで分けてディスカッションをしているが、3つのテーマをいかに掛け算するかということが大事。500年の歴史を持つ細河の園芸と、古民家・廃校の活用、学生や若者との連携、これらをどう絡めていくかが今回のテーマパーク構想の肝だと思っている。
- ・細河の自然には2つあって、まず五月山を思い浮かべるような元々あった自然。もう一つは、植木産業が盛んになったことにより多様な樹種・園芸品種を含めた植物が導入され、池田の植木屋が育て、それを全国に供給していったというもの。
- ・これまで色々な産地を回ってきたが、植木産業は元々の自然というよりも、そこに人の手が加わった自然ということが言い切れる。これを上手く使って施策にしてはどうか。
- ・Google Earthで池田市を上空から見てみた。自然と都会のちょうど中間に池田市が位置していることがはっきりと分かる。池田市は都会と田舎のちょうど中間地点の面白い所であり、海外の人から見ても老若男女から見ても面白い。池田市の人には池田市の中に入りすぎているので、もう少し外からの目線を見て、細河の自然について考えてみるのもいいのではないかな。
- ・直接植木の生産ではなく、公園等の設計・計画に携わっている。毎年小さな植木が生産されているが、植木の生産・販売だけで生活が成り立つというわけではなく、外での管理仕事、例えば街路樹の選定等をして収入を得ている方も多く、できれば植木の生産・販売で安定した収入を得られるようにしないと後継者を育てにくい。生活に直結するような形で植木生産等、細河地区の活性化に繋がれば良いと思う。
- ・事前アンケートでは、研究施設みたいなものを提案したが、できれば農業や植木の生産者に直接就労してもらえそうな場所があれば良いと思う。
- ・息子が植木産業を継いでくれているが、不安な面もある。
- ・細河地区に植木の巨大迷路を作る方向でやっついこうという話もある。
- ・西畠氏ととんでもない話ができると期待している。山の上の高い所ではなく阪神高速付近等のもっと見える場所で、おもしろいシンボルツリーのような植木を植えてほしい。
- ・若い人からは、自然豊かな山の道をマウンテンバイクで走れるコースがあれば良い、という話がよく出る。
- ・細河の山には雑木だけではなく、先代・先々代が何十年とかけて育てた木や、花が咲く木など色々な樹種を植えているので、見ていただきたい。今はジャングル状態。

- ・場所は山手。山の中の山岳コースで、木も見てもらいたい。現在すでに整備された道もあるし、それを活かして色々な道を作ることもできる。
- ・アートイベントのようなものは流行の周期があるのか続かない。持続できる内容を考えないといけないと思う。芸術家が前に出てやっていくようなものではない、という認識を持っている。
- ・これから細河のことを考えると、池田市が教育行政において力を入れている教育啓蒙的な活動は入れた方がよい。
- ・芸術に関する捉え方が変化してきている。これまで芸術は美術館やギャラリー等限られた場所で見られるものという認識だったが、現在は作品だけではなく、作品ができるまでの工程、いわゆる発想やアイデアに着目されてきている。
- ・細河のイメージが明確に見えづらい。分かりやすい「野外美術館」のようなものが必要。
- ・例えば「池田市はアーティストをめざす人を支援します」といったようなものはどうか。独特なシステムを考える。東京の港区や四国の松山市に呼んで、50日間市民とトークをする等、作品について市民と話し合うことは大事。出来上がるまでの工程を大事にすれば何か出てくるような気がする。
- ・足利フラワーパーク（栃木県）には、藤の花が一本咲いたら1か月で100万人来る。植物もブランディングできれば多くの人がある、ということを知ったほうがよい。植物を世間にどのようにPRしていくかが大切だと感じている。そのためにはリアルな場所づくりとプレゼンテーションが大事。
- ・池田駅前、細河園芸センター、旧細河小学校、それらを繋ぐ国道の街路樹が肝になってくる。
- ・植木のアウトレットモールを園芸屋が協力して作って、直売できる場所とする。直売の良し悪しはあるが、上手くスキームを作る。そこには植木の巨大迷路、農業体験・園芸体験できる施設、研究施設があってもよい。植木について総合的に体験したり、買ったりできるような場所が細河のどこかにあってもよいと思う。
- ・植木屋が一本ずつ植木を植えて、日本一不思議な並木通り。まるで植物が歩いているように、細河まで歩ける並木通り等がよいと思う。
- ・都内で大手不動産会社が関係する街路樹のプロデュースをし、一本一本違う並木を提案した。それがどれほどオーガニックで有機的な考えか、また海外にはそういう事例があるということを知ることによって実現した。それまでは六本木や表参道通りの緑視率37%が都内では最高であったが、緑視率が55%となり、都内で一番緑が見える並木道になった。
- ・いかに劇的なプレゼンテーションを行い、世間に知ってもらい話題性にするかが重要。分かりやすく、劇的な施策が細河には必要。このままだと何年もかかってしまう。
- ・突拍子もないことをする必要がある、と感じた。
- ・西嶋氏から色々なアイデアをもっと聞きたいので、絞り出してもらいたい。
- ・ダンスを使ったセラピーをやっているが、緑を使ったセラピーはあるのか。
→園芸療法はあり、導入している病院はある。ただ、時期が限られている。園芸療法の専門家を養成する講座もある。
- ・細河園芸センター・旧細河小学校がキーポイント。前者は池田市の所有物ではないが、2回目の懇談会からは触れる必要がある。
- ・昔に比べて里山に入りづらくなっている。自然と人を近づける方法を組んでいかないといけない。里山クラブ、森クラブなどもある。
- ・人と山を近づけるための人づくりにおいて、NPOとの連携なども大事になると思う。
- ・繋ぐものがアート、マウンテンバイク、迷路になるかもしれない。繋ぐことがキーポイントで、ツールと人で繋ぐのが大事になると思う。

- ・我々の年代は健康や運動に関心が高くなっている。自然を活かしたアスレチックのような子供から高齢の方まで楽しめる運動施設。いったん作るとその後はあまり費用がかからない。大阪の北の方にはあまりない。
- ・能勢街道については、それから東に逸れる脇道を作ることによって細河地域を活かせるのではないかと。街道を活かしたまちづくりは大きな展開が期待できるのではないかと思う。
- ・植木からもう少し広げて、時期の特色を活かした植木・花を若い人に人気な神社や仏閣に植えることで特色を出す。細河の名前を知ってもらうチャンスになる。
- ・室内植物や盆栽、室内にももっと目を向ける。
- ・地元の女性の方から蛸が人気。寄付を集めて、手作りの団扇や風鈴などを配布。集金方法に寄付もある。昆虫も人気。
- ・池田市には道の駅がない。海の駅、道の駅も流行っている。植木の販売も含めて、国道 423 号に面している有利な条件を活かし、道の駅を作ってはどうか。オートバイのレストハウス、オートキャンプ場を併設する。新名神に繋がる道路を整備し、交通の要所にしてはどうか。

8. テーマ②「古民家・廃校を活用した施策」のディスカッション

<意見>

◇総則的意見

- ・古民家としては、茅葺に近いものはほとんどなくなっている。
- ・細河地域には、休耕田や放棄田畑は多い。
- ・空き家については、ほとんど取り壊され、更地になっている。
- ・古民家は、議題に載せづらいと思う。
- ・旧細河小学校は、地震発生時と洪水発生時の避難所にはなっているが、土砂災害の際の避難所にはなっていない。いざとなれば、市民が避難する場所がないというのが実情。山の一つを削ってヘリが離発着できる避難所にし、そこに給食センターや道の駅も作ってはどうか。
- ・地域の方が皆で集えるような施設があれば一番納得してもらえらると思う。
- ・安全面を兼ねた施設を作りたい。活用以上に安全面が重視されるのではないかと思う。
- ・災害面で不安はあるが、何かをするには便利な場所。川や山も近く、人を呼んで集める場所としては便利。細河園芸センター等とも一体となって地域のコアにしてはどうか。
- ・細河地域には、500 年の歴史を持つ植木産業があり、バイオの研究で新しいオリジナル品種を作りたい。研究施設からすぐにフィールドに展開できるような施設が良い。
- ・本格的な園芸学校を作る等、外部の知恵を入れた方が良い。
- ・正月の松竹梅の五葉松である「ためまつ」は、細河にしかない品種で、細河地区限定の技術。しかし需要・生産は減少している。
- ・植木塾 22 という団体で、植木の見本園で色々な品種の起用・植栽を行っている。
- ・建物を建てると安全面で懸念が出てくるので、ハード面というよりは、植物等を活かしたものの方が地域に特化しており、防災面からも良い。一つの品種に絞ったテーマパークなど。
- ・旧細河小学校は売らないでほしいと言われてきた経緯がある。地域で子供たちがキャッチボール等をできる場所はそこしかない。また、地域の避難所としても位置付けている。校舎は早く取り壊し、空き地部分をどのように活用するかが課題。
- ・旧細河小学校よりも細河園芸センターの活用に向けていきたい。
- ・旧細河小学校の取り壊し費用は、3~4 億円程度かかるのではないかと。費用をいかに捻出していか

も考慮する必要がある。

◇自然を活かしてお客さんを呼び寄せるアイデアについて

- ・体育館に興味を持った。アーティストをめざす人が集まってこられる地域や場所があるべき。体育館を、アーティストが集まり、作品の制作・展示、生活できる場にしてはどうか。作品を家賃として寄付してもらおう。外に開いていくような活動も大事。
- ・東山町に住み、ずっとその山を見て生活してきた。五月山のおかげで台風によって家が壊れたというのを聞いたことがない。
- ・今は昔と違い山に誰も入らない。山が荒廃している。個人的には山の管理ができないので寄付したい。五月山はすべてが個人の資産で権利関係がばらついている。
- ・ほそごう学園の生徒と共に、食育と里山について学んでいる。田んぼでは種をまいて、口に入るところまで見届ける。山では枝打ちくらいは体験してもらって山の大切さを学んでもらっている。
- ・去年まで山の整備で一週間山に入っていたが、地元の人あまり見かけず、都会の人に会うことの方が多かった。地元の人五月山の魅力を分かっていない。
- ・五月山でツリーハウスを作っている人もいる。
- ・朝昼晩と五月山（東山）を正面に見て過ごしている。紅葉が普通のことだと思っているが、外から見た景観に価値がある。
- ・五月山かは分からないが昔は松茸が取れた。学生やアーティストとコラボし、松茸林の再生や竹の伐採をしてはどうか。

◇山全体を活かしたアートについて

- ・作品を制作し、五月山に展示。
- ・遊具を五月山に設置。
- ・道の駅と五月山をセットで考える。トイレ・レストハウスも整備し、山の中にはアートや遊具を置き、もう少し都会的な山にする。

9. テーマ③「地域・学生・若者と連携した持続的な施策（教育に関連した施策を含む）」のディスカッション

<意見>

◇現状、学生とコラボレーションしている施策内容と課題について

- ・関大生からオファーがあり、植木塾 22 の見本園を手伝ってもらったが数回で終了。地元で寝泊まりせず、イベントや作業に参加してもらう形。
- ・細河フェアを開催。以前は大学 2 年生 20 名を対象に植木の説明などをしていたが、イベントの一環として参加するため、自分が何をすべきかという理解がない状態で参加していた。今年度は学生の人数も 4、5 名に絞り、自らが教壇に立ち、説明してもらう形に変更。
- ・この地域で学生や子供と接し、同じ価値観を持って一つのイベントをすることが大事だと思っており、より良いものにするために知恵を貸してほしい。
- ・教育機関が協力してもらわないと、もっと良いものを作っていくのは難しい。
- ・小学生を対象としたイベントとして植木のまき方の講習会は開催したことがある。
- ・外国人が仕事を見に来た。学生だけではなく、海外の方向けに植木体験をやっていききたい。
- ・綿密に打ち合わせした上で、学校のクラス単位で米作りの田植え・草引き・稲刈り時期に学生が来

て、農家の人に指導員をやってもらうという話はよく聞く。危ないといって触らせないのではなく、鎌や鉋の正しい使い方をあえてレクチャーしている。

- ・現在、小学3・4年生は地域学習として細河の植木を学習。小学5年生は産業学習。中学生にも職業学習を行っている。
- ・繋がりがある先生は直接交渉して行っているが、繋がりが無い先生に関しては教育委員会が間に入る必要がある。
- ・人間展は全国の美大に焦点を絞って行っている。
- ・地縁的な関係を作っていくには、小学生・中学生・高校生と成長していく過程で地域との関わりを持つ仕組みを作ればよい。
- ・狭山市は狭山池がシンボル。狭山市には100～200人の小中学生の劇団があり、月に一度狭山池の掃除をしている。高校生からはまちづくりプランナーを募集し、さらに大人になると池まつり実行委員会、その後市会議員に繋がる。小学生から池を通して成長していく仕組みを作った。
- ・道をつくるというのも良い。事前準備をしていたら、小学生でもできるし、大きな達成感を感じることができる。地域との繋がりができる。
- ・古民家の件で、農家民泊・民宿で外部の人を受け入れるという意見が出ている。例えば自宅に芸術大学の学生を4年間受け入れ、家賃は安くし、お手伝いをしてもらう。後々アーティストが育てば、池田といえばアーティストが育つ環境というイメージが定着する。

10. まとめ・次回に向けての課題共有

- ・第1回の目標はアイデアの発散であり、目標は達成できたと思う。
- ・第2回は第1回のアイデアをまとめた上で、地域プランと紐づけた形で具体的なアクションプランの土台作成をめざす。
- ・次回の開催は10月上旬を予定。

以上

第2回 有識者等懇談会（細河地域）議事次第

日時：10月3日（火）14時～17時

場所：池田市上下水道部庁舎3階研修室

- 1 池田市挨拶・実施（予定）事業の説明
- 2 前回の懇談会の振り返り
- 3 第2回の懇談会の目標地点の整理
- 4 各テーマ別ディスカッション
テーマ①：植木の利活用について
テーマ②：緑のモール（仮称）構想について

小休憩

- テーマ③：大池田展（仮称）について
- 5 その他テーマのディスカッション
 - 6 まとめ・次回に向けての課題共有

以上



第2回有識者等懇談会（細河地域）

有限責任監査法人トーマツ
2017年10月3日

本日のアジェンダ

	アジェンダ	
1	池田市挨拶・実施(予定)事業の説明	池田市
2	前回の懇談会の振り返り	トーマツ
3	第2回の懇談会の目標地点の整理	トーマツ
4	植木の利活用について	全員
5	緑のモール(仮称)構想について	全員
6	大池田展(仮称)について	全員
7	その他テーマのディスカッション	全員
8	まとめ・次回に向けての課題共有	トーマツ

前回の振り返り

テーマパーク構想に資する各地域でのテーマ設定が重要です

懇談会を経て、各地域でのテーマを想定したいと考えています

細河地域

地域プランの2つの方向性

- ✓ 細河の自然を取り入れたまちづくり
- ✓ 若者が住みたくなるまちづくり

伏尾台地域

地域プランの2つの方向性

- ✓ 子育てにやさしいまち
- ✓ みんなが住みたくなるまち

池田地域

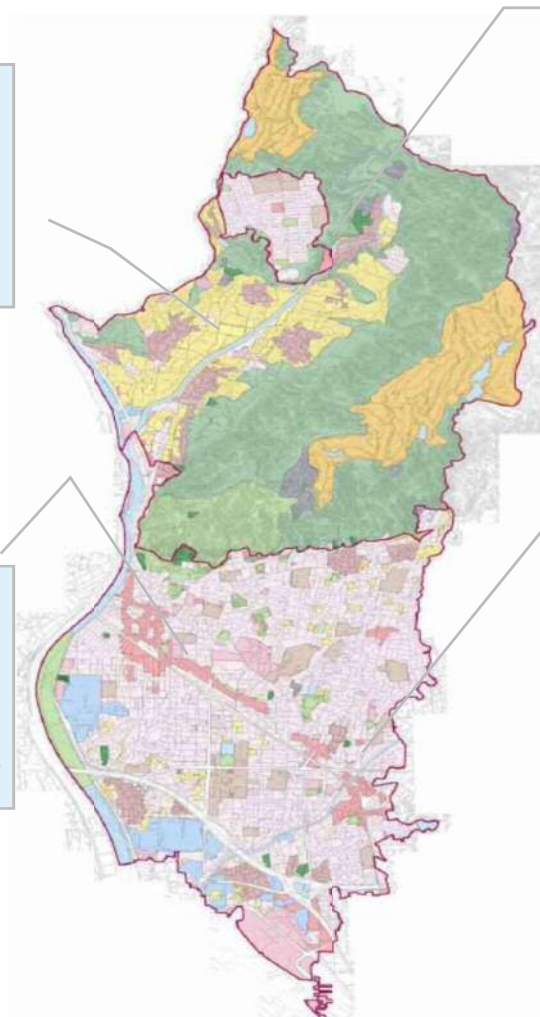
池田DMO構想の方向性

- ✓ 行ってみたいまち
- ✓ 来てみて楽しいまち(住んでみたいまち)

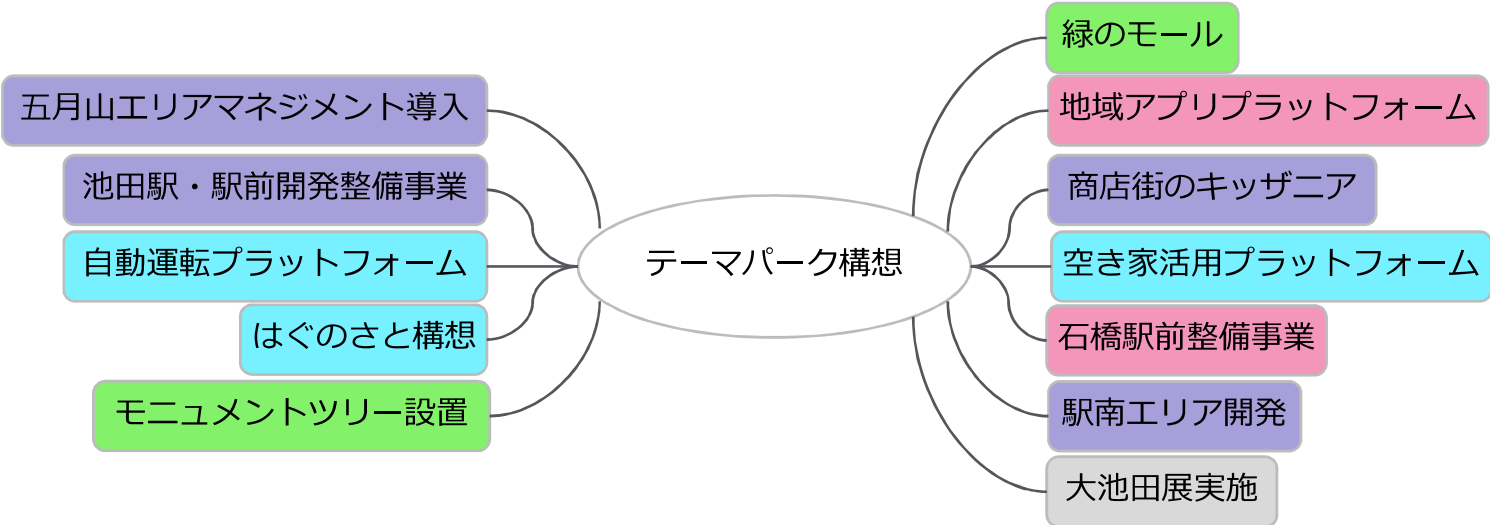
石橋地域

地域プランの2つの方向性

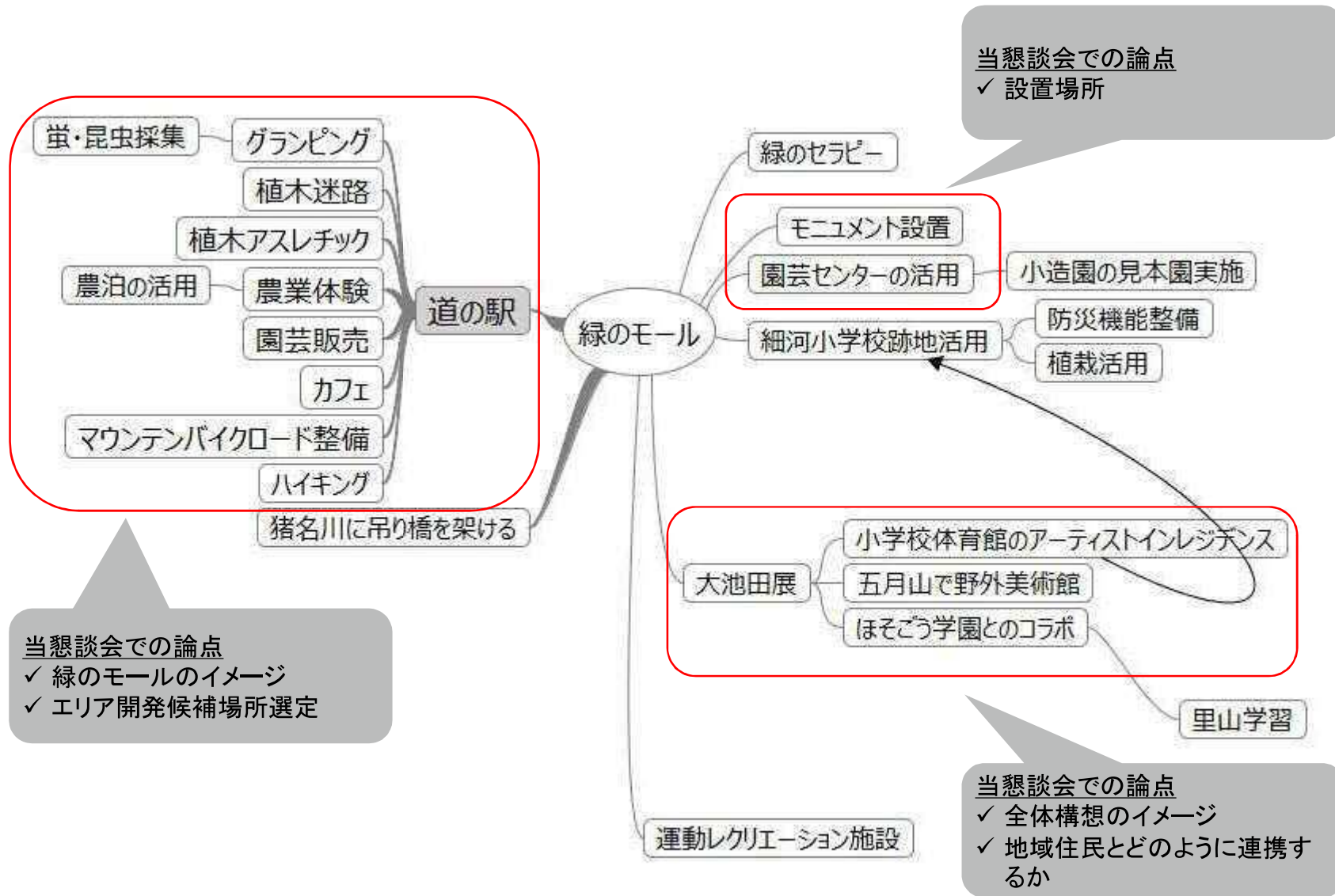
- ✓ 子どもと子育て世代が集まる いしばし
- ✓ 人が集い交流する愛着のある いしばし



テーマパーク構想メインアイデアマップ



細河におけるアイデアマップ



当懇談会での論点
✓ 設置場所

当懇談会での論点
✓ 緑のモールのイメージ
✓ エリア開発候補場所選定

当懇談会での論点
✓ 全体構想のイメージ
✓ 地域住民とどのように連携するか

第2回の懇談会の目標地点の整理

有識者等懇談会の各回の目標地点について(前回の資料再掲)

第1回懇談会

目標地点: テーマパークの素材を数多く引き出す

済

第2回懇談会

目標地点: 地域プランに関連づけたアクションプランの素材をピックアップ

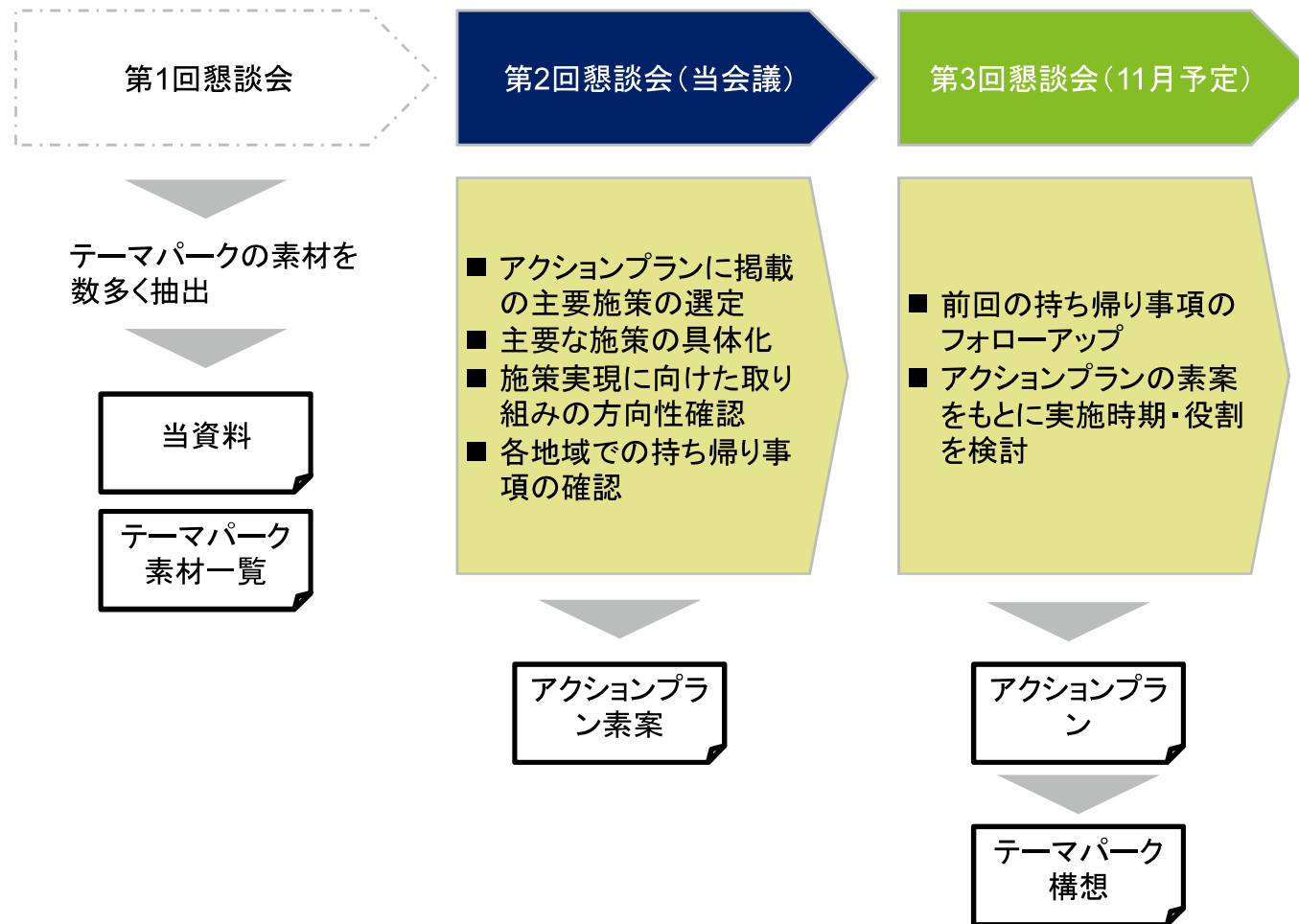
今回の目標地点

第3回懇談会

目標地点: 各地域アクションプランの確定

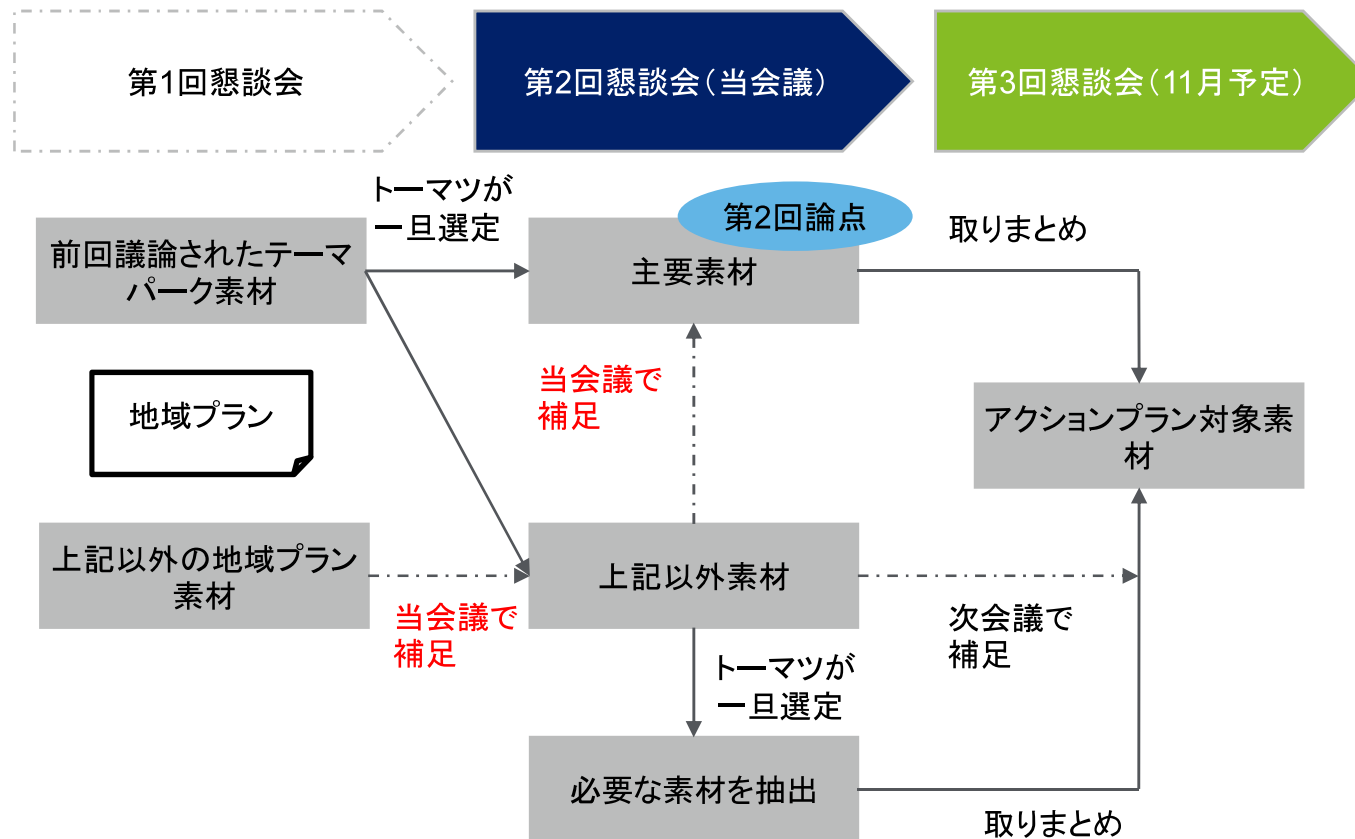
第2回懇談会の目的の確認

テーマパーク構想の主役は地域住民であることの再確認します

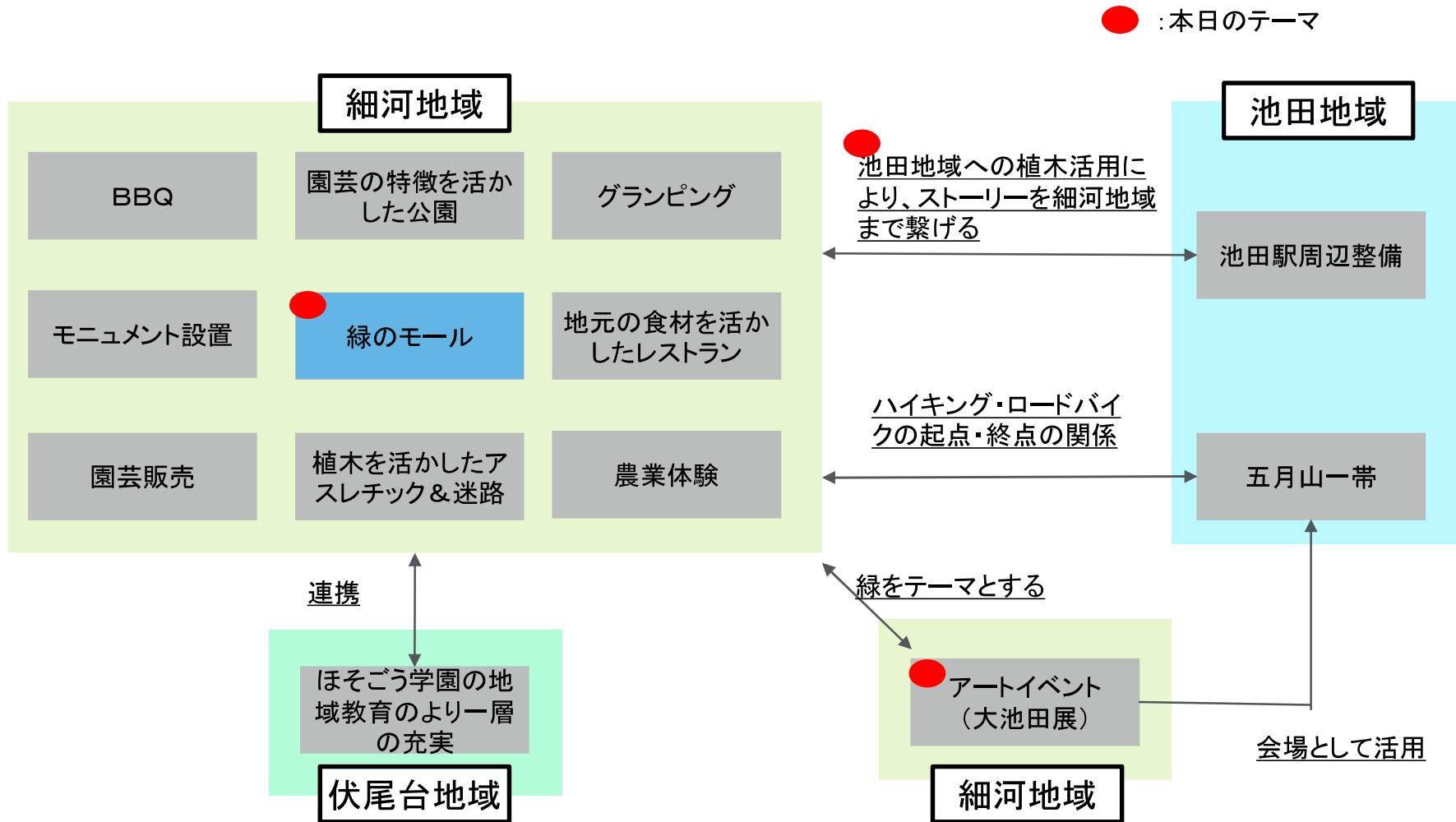


テーマパーク素材(施策)とアクションプラン策定までの流れ

アクションプラン策定にあたっての素材は地域プランや当懇談会よりとりまとめます



主要施策の関連図



テーマ①: 植木の利活用について

植木産業の利活用イメージ(地域間連携)

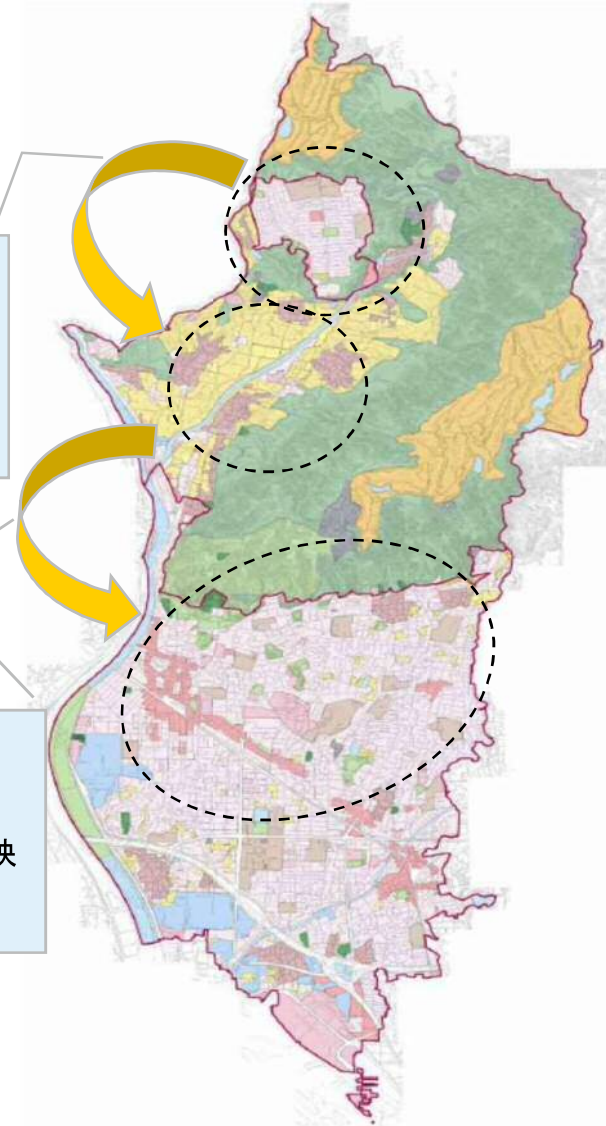
細河地域の植木や園芸技術を他地域で活用する展開を想定しています

伏尾台地域との連携

- ✓ ほそごう学園との連携(地域学習の充実)

池田地域への展開

- ✓ 駅および駅周辺整備との連携
- ✓ アートイベントへの活用による写真映えの景観創出



想定論点

- 他地域の活用用途の是非
- 考えられる課題(資金・メンテナンス等)
- 西畠氏とのコラボレーション
- モニュメントツリーについて

テーマ②：緑のモール(仮称)構想について

想定論点

- 設置拠点について
- コンテンツについて(その他道の駅の事例参照)
- 園芸センターの活用について

成功している道の駅の共通項とは・・・

成功事例に共通している事項は以下のとおり考えます

- ◆ 地元の食材を使ったレストラン等を整備
- ◆ 農業体験等体験型施設を併設
- ◆ 地元住民との対話(植物のプロからの育て方レクチャー等)
- ◆ 緑を活かした独自の庭園(子供が遊べる広場等)
- ◆ フォトジェニックな環境を整える

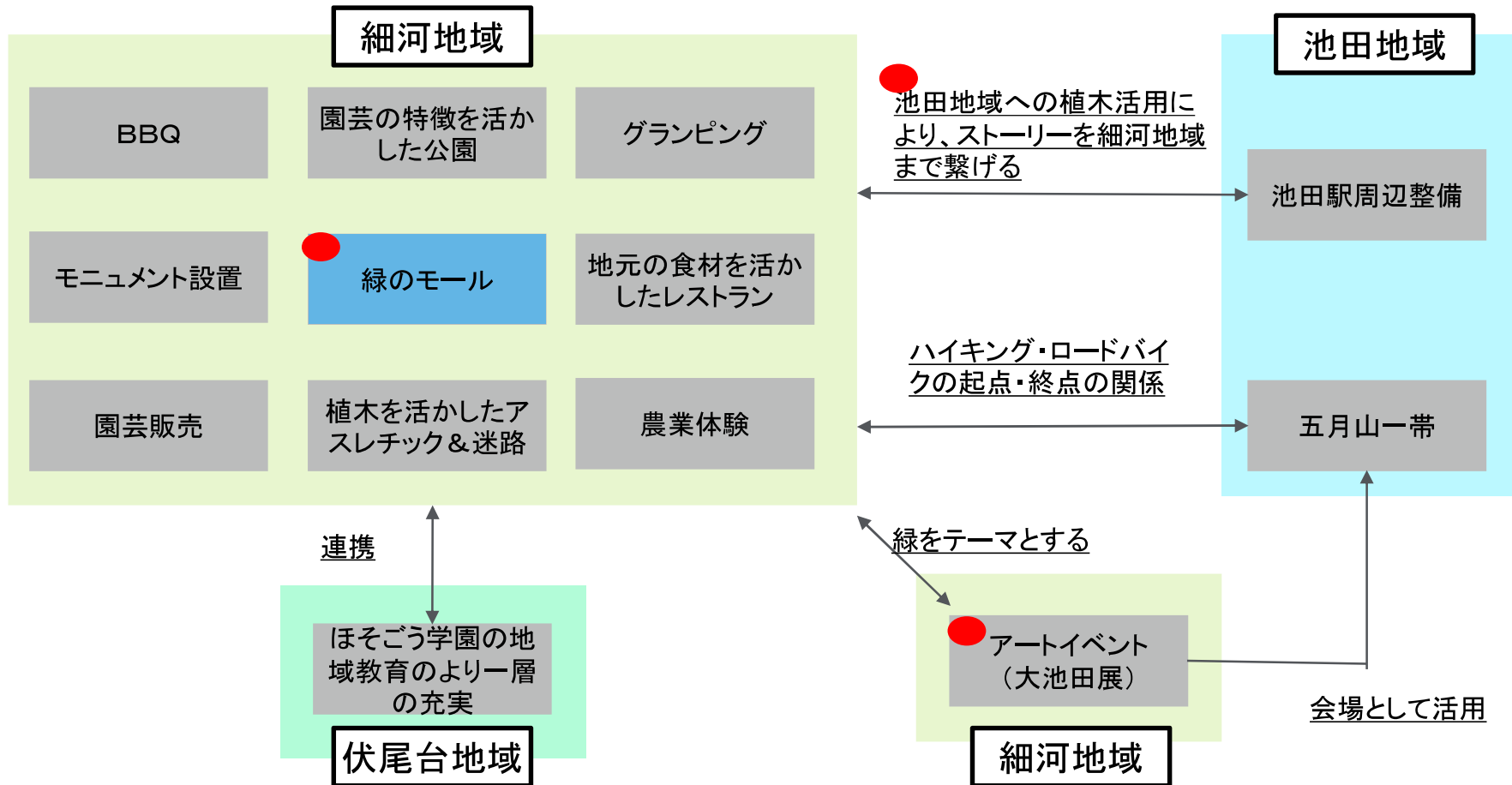


以上を踏まえて細河に必要な要素を組み立ててテーマ設定を行う必要があります

テーマ③: 大池田展(仮称)について

本日のまとめ (再掲)

● : 本日のテーマ



各地域で持ち帰っていただきたい事、次回の懇談会までに・・・

本日の議論を踏まえて、以下の事項を是非地域で検討してください

➤ テーマパーク構想に盛り込む地域のアクションプランについて

➤ 本日議論したメインアイデアの実施について

デロイト トーマツ グループは日本におけるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(英国の法令に基づく保証有限責任会社)のメンバーファームおよびそのグループ法人(有限責任監査法人トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人およびDT 弁護士 法人を含む)の総称です。デロイト トーマツ グループは日本で最大級のビジネス プロフェッショナル グループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査、税務、法務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー等を提供しています。また、国内約40都市に約9,400名の専門家(公認会計士、税理士、弁護士、コンサルタントなど)を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト(www.deloitte.com/jp)をご覧ください。

Deloitte(デロイト)は、監査、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー サービス、リスク アドバイザリー、税務およびこれらに関連するサービスを、さまざまな業種にわたる上場・非上場のクライアントに提供しています。全世界150を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ、デロイトは、高度に複合化されたビジネスに取り組むクライアントに向けて、深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスをFortune Global 500® の8割の企業に提供しています。“Making an impact that matters”を自らの使命とするデロイトの約245,000名の専門家については、[Facebook](#)、[LinkedIn](#)、[Twitter](#)もご覧ください。

Deloitte(デロイト)とは、英国の法令に基づく保証有限責任会社であるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(“DTTL”)ならびにそのネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびその関係会社のひとつまたは複数指します。DTTLおよび各メンバーファームはそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTL(または“Deloitte Global”)はクライアントへのサービス提供を行いません。Deloitteのメンバーファームによるグローバルネットワークの詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、その性質上、特定の個人や事業体に具体的に適用される個別の事情に対応するものではありません。また、本資料の作成または発行後に、関連する制度その他の適用の前提となる状況について、変動を生じる可能性もあります。個別の事案に適用するためには、当該時点で有効とされる内容により結論等を異にする可能性があることをご留意いただき、本資料の記載のみに依拠して意思決定・行動をされることなく、適用に関する具体的な事案をもとに適切な専門家にご相談ください。

第2回 有識者等懇談会（細河地域） （議事要旨）

日 時：平成29年10月3日（火）14：00～17：00

場 所：池田市上下水道部庁舎3階研修室

出席者：テーマパーク構想ディレクター 西島清順、堀内健二

地域住民等 8人

池田市 倉田市長、藤田副市長、総合政策部長、環境部長、都市建設部長、
管理部長、教育部長

1. 池田市より挨拶

2. 実施（予定）事業の説明

3. 前回の懇談会の振り返り

4. 第2回の懇談会の目的地点の整理

- 第1回目は議論の発散フェーズ。
- 前回の議論の深掘り及びアクションプランの方向性に関するご意見を頂きたい。
- 本日議論した内容を検討材料として持ち帰り、各地域において建設的な議論をしていた
だき、第3回の際にぜひ発表いただきたい。

5. テーマ①「植木の利活用について」のディスカッション

◇西島氏プレゼンテーション

- 300ほどのプロジェクトに着手したが、そのうち4つを紹介したい。
- パークシティ大崎（品川区）：三井不動産と品川区の20年計画のプロジェクトの最後の
2年に参加。インターネットで四季を売りにしたまちづくりを検索したら1億件くらい
ヒットする。四季を売りにしたものは世の中にたくさんある中で、大崎らしさとは何か
を考えた。「オーガニックシティ」のオーガニックとは有機的という意味である。憩いの
場所やオフィスなど、たくさんの要素が集まって1つのまちになることをめざした。6
つの公園すべてを回ってひとつの公園にするのではなく、それぞれにテーマを持たせ、
わざわざ行ってみたくなるような植栽をした。植木は経年有価するので、植木のモニユ
メントにした。自然の中では不揃いが当たり前なので、1本1本違う並木道を作った。
植栽に追加で2億円ほどかかったが、結果として700億円の建設費のマンションが完売
した。植栽はあまり費用をかけずにまちをブランディングできるアイデアとして認識し
てもらえた事例。

- キセラ川西(川西市)：川西市が里山をテーマに、意味のある公園にしたいという思いでつくった。災害時に2,000人の市民を3週間賄えるだけの地下水がある。災害時に皆が集える公園。集合都市認定として政府が初めて行ったプロジェクト。開催した植樹式には700の方が来られた。未来の川西市民に手紙を書いて、桜の木と共に植えた。
- ガーデنز・バイ・ザ・ベイ(シンガポール)：シンガポールというお金もなくて、魅力もなくて、知名度もない、力もない、そんな国を緑でブランディングすると決めたリー・クアンユー氏。シンガポールに世界中から植物を集め、近代植物園としては世界No.1と言われている。シンガポールと日本国交50周年の際にイベントを開催し、日本の桜を輸出し、植樹方法なども伝授。このイベントは入場者数記録を更新した。
- 常盤ミュージアム(宇部市)：入場者数が伸び悩んでいることで依頼があり着手。デジタルアートとのコラボレーション。ナイトミュージアム、ナイト水族館も最近流行しているが、夜に見せる公園の成功事例。バオバブの木を植栽するにあたり、地元の社長の寄付(クラウドファンディング)によって市民の夢が叶った。
- 今朝池田市の交差点を通ったが寂しかった。植木のまち池田に入ってきたと感じられるようにブランディングしていけたらと思う。

<意見>

◇総則的意見

- 植木産業は衰退してきているのが現実。東山町には耕作放棄地域があり、1日でも早く作物が育つ農地や里山に生まれ変わらせたい。
- 休耕地等も増えてきており、今なら場所的なものも確保できると思う。市がもっと表に出て、テーマパークを作ってほしいと思う。
- 植木塾22の皆様は刺激を受けられたことで、良い意味でコラボレーションし、切磋琢磨しながら発展して行ってほしいと思う。西畠氏が全てでもないが、細河のこれまでのやり方が全てでもない。
- ガーデنز・バイ・ザ・ベイの写真を見た時に「ガーデنز・イン・ザ・ステーション」のイメージが浮かんだ。資金調達の課題については検討が必要と考える。
- 伝統的な植木産業と西畠氏のアイデアのコラボを実現できる場所が緑のモールと考える。池田に入った瞬間に植木を感じることができれば良いのではというのが前回に出た意見。大池田展をするにあたって、園芸技術を上手く活用し、地域の距離感をテーマで一体化させていきたい。資金の調達方法に関しては様々な仕掛けが必要。何をめざしているのかを市民や大衆に上手く説明し、例えばクラウドファンディングなど大衆から集める方法もある。
- 池田市は細河地区活性化として、従前、お金と時間を使ってきたが、結果的に失敗に終わっている。その失敗した原因などが精査されて今回の施策になっているのかを危惧している。シンボルツリーを選ぶにしても、細河に相応しい木があるのか。細河にない場

合、他所から持って来て植えることで、細河のシンボルツリーになるのかどうか心配している。

- 大前提として、池田の植木産業が 500 年の伝統があるとすると、500 年前に植えられていたものと今植えられているものとは種類が違ふ。様々な文化は時代によって変わってきた。
- 古いことを捨てて、新しいことをしようというつもりは全くない。古いものを活かしつつ、時代にあったことをしようという考えが重要と考える。
- 休耕田や放棄地はかなり問題になっている。猪や鹿が巣を作っている可能性もあり、早急に対処が必要。伝統的なものから珍しいものや希少品種を集めてガーデンにし、飲食できる場所もあり、植木の現物を見て、これが欲しいと伝えたら購入できるような場所を構築できたらと思う。

◇池田駅周辺の細河の植木活用における課題について

- 植木の生産・販売をしているが、マンネリ化している。人と変わったことをしないと注目してもらえない。西畠氏のように新しいものを取り入れていかないと生き残っていけないのではないかと思う。例えば、同じ木でも、育て方によって形を変えてみるなど、そのような木を細河につくっていききたい。
- 細河にある木だけでは表現できないと思う。今までにないものを作り方という方面で変えていかなければならないと思う。
- それぞれが生産している植木には目的がある。例えば、庭に植えてもらうために育てたものを駅前にそのまま植えたとしても目的が違うので、西畠氏が作られたもののように壮大な感じにはならない。西畠氏が使っておられたようなイメージの木は細河にはないと思う。植木は時間がかかるもの、短期的にできるものではないと思う。

6. テーマ②「緑のモール（仮称）構想について」のディスカッション

◇道の駅その他の事例紹介

- 道の駅カワプラザ（常陸大宮市）：手ぶらで BBQ 施設、体験農園併設、遊具を備えた公園併設、地場食材を活かしたレストラン整備
- 道の駅田園プラザかわば（群馬県利根郡）：地場産の新鮮な野菜や果物の販売、花々や地域の豊富な森林資源を有効活用した木工雑貨・玩具などの販売、木工デコレーション体験、一日陶芸体験教室、川場村を代表する農作物ブルーベリー無料摘み取り体験
- 道の駅 庭園の郷 保内（三条市）：庭園・園芸植物見本園、地元造園業者などにより作られた 7 つの庭園、庭園の景観が楽しめる和室のレンタル（茶席の設え有）、庭で栽培できるハーブや果樹を使用した料理が堪能できるレストラン、地物野菜や物産品、ガーデン雑貨や道具の販売
- 道の駅みやま公園（玉野市）：四季折々の花や木などが見られる「散策ゾーン」、本格的

な英国庭園「深山イギリス庭園」、パターゴルフなどの「プレイゾーン」、採れたて野菜や鮮魚を販売する「直販コーナー」、愛犬と一緒に遊べる「ドッグラン」

- 道の駅 くりもと 紅小町の郷（香取市）：さつまいもの収穫体験や稲刈りなどの農業体験、こんにゃく作り教室や丹波黒豆味噌作り教室などの食育教室、日帰り型と滞在型の2つの市民農園、ニジマス養殖池やシイタケ園などの里山公園、地元の食材を堪能できるレストラン
- The Farm UNIVERSAL（茨木市）：「EAT」植物に囲まれた気持ちの良いカフェ FARMER'S KITCHEN。「BUY」植物、ガーデンツール、ポットなどを販売。最適な植物などをプロがアドバイス。「PLAY」人工的ではなく、自然の地形と植物配置を考え、敷地内には大きな木を植え、大人も子供もわくわくするようなガーデン。「STUDY」植物のプロフェッショナルスタッフから植物の育て方を教わることができる。「PHOTO」写真を撮りたくなる・発信したくなる場所
- 共通していることは「地元食材が味わえるレストランやカフェスペース」「農業体験など体験施設」「地元住民との対話」「緑を活かした独自の庭園」「フォトジェニックな環境を整えること」

<意見>

◇総則的意見

- 道の駅があれば良いと思うが、できるかなという気持ちがある。まとまりが薄いので、市が全体的にもう少し引っ張ってほしい。場所を確保する方法が気になる。道の駅に固定するのではなく、大きく広げて、選んでいくような状態で決めていけたら良いと思う。
- 東山町に給食センターが建つとのことであるが、現在私自身も市民農園をしており、食育という点でほそごう学園の子供たちを中心にお付き合いをしている。市民農園には若い方が農業をやってみたいと来る。給食センターの自家農園で年中安定して供給できるものをつくるのも良いと思うが、生活費の半分くらいの収入は得られるように活動できればと思う。最終は買い上げしてもらうことが問題になる。放棄地を給食センター用、もしくは農業用に使用してもらいたい。
- 地域間連携をさらに広域で見た方が良いのではないか。
- 池田としての色を守りながら、開発をしていく必要がある。このくらい大きなテーマパーク構想をするのであれば、池田市が独自で景観条例をつくるのも良いのではないか。藤井寺市は市長の判断で景観条例をつくった。池田市も開発と並行して、高さ制限や色彩制限を設けていく取組みをしていけば良いのでは。
- アートと植木のコラボレーションが非常に重要。例えば、道の駅の入り口にウオンバットなど動物の形に加工した植物を置くのはどうか。子供達も楽しく過ごせ、フォトジェニックという観点からも良いのでは。新しい植木の見せ方は1つのポイントとなると思

う。また、道路を活かせるサイクリングやグランピング、温泉などと結び付けることも良いと思う。さらに、高齢者が多いことに着目し、自動走行の車の活用も有効かと思う。ダイハツという企業もあり、実験的に伏尾台と細河を結びつけるなど、走行実験のエリアとしても新しいまちづくりをめざしてはどうか。植木以外の商品の販売も考え、新しい商品開発も良いのではないか。

- 細河でしか体験できない環境をどう築くかは大切になってくる。道の駅を開発するとなると、ディベロッパーなどを真剣に考えていかなければならない。細河は車での利便性は良い。緑のモールの見せ方次第では、ディベロッパーは来てくれると思う。具現化していくためには、地域全体でテーマパーク構想を盛り上げていく必要がある。
- 過去の失敗は繰り返してはいけませんが、何かしないと前には進まないと思う。地域を盛り上げていく最終的な主役は地域住民の皆様。課題もあるとは思いますが、建設的に新しい発想を取り込んでいただけたらと思う。
- 細河の園芸センターが道の駅の候補地として考えられると思う。ここを外しては、道の駅の構想は考えられないのではないか。
- 以前に道の駅の活用を考えたことはあるが、近くにくりの郷（能勢）という道の駅があり、距離的に認可が下りないのではないかという危惧があった。その辺りは問題ないのかが知りたい。
- 道の駅の指定管理者になっていただける業者がたくさんあるので作りやすいと思う。道の駅は道路利用者の休憩施設なので、新名神の開通により利用者が増え、道の駅をつくりやすい条件は揃っている。魅力的な施設なので、ぜひつくってほしい。
- 道の駅としての認可が下りるかどうかはさておき、コミュニティ施設として緑のモールをつくっていききたいという認識。
- 池田駅を緑で覆ってしまえば注目度が上がるのではないかとこのことであったが、駅周辺で完結してしまうのではないかと思う。池田駅はあくまで導入口であって、電車で来られる方を細河地域などにどのように導いていくのが課題だと感じる。緑のモールは車では便利な場所になるかと思うが、公共交通機関や徒歩でカップヌードルミュージアム大阪池田や五月山動物園を目当てで来られた方をどのように緑のモールに導いていくかが問題と感じている。
- 園芸センターは国道に面していることと、余野川等も近いことから、良さそうな場所だと思う。
- ルートとして繋げるものに植木も良いが、アートはどうか。アートを若者に作ってもらい、それを定期的に入れ替えていくのはどうか。
- 河内長野市では、サイクリングをする際、道の駅を拠点としており、利用者は道の駅でマウンテンバイクに乗り換える。そのようにするのも良いのではないか。
- 西島氏の話聞き、緑の力強さを感じた。地域との絡みなど色々なところで使えるのではないかと思った。目的を明確にして議論していくことが大切だと思う。緑のモールで

各々がどういった役割をし、どのようなデザインを入れていくのか、そのような議論はもっとしていく必要があると思う。

7. テーマ③「大池田展（仮称）について」のディスカッション

◇堀内氏プレゼンテーション

- 芸術の持つ力、特性、芸術が人間に与える影響について考えていきたい。人と人が違いを越えて繋がっていくための柔軟性や自由な観点を改めて人間展から感じる。芸術は社会の変革のために必要な要素と考えられてきている。芸術の持つ力が改めて認識されてきたのではないかと。芸術の持つエネルギーを引き出して、活用・転換し、地域発展・進化の鍵になるのではないかと。思う。
- 池田市の個性をつくる。外から多くの人を惹きよせるランドマーク的なものを考えていかなければならない。池田市に多くの人が訪ねて来なければ何も始まらない。テーマパーク構想の中心軸に「大池田展」を据えられたら良いと思う。外に強くアピールする。
- 大池田展の構成については、案であるが、メインイベント「池田人間展グランプリ」とサブイベント「池田植物感謝祭」。テーマは人間と植物で統一。会期は1～3か月。会場は細河地域、五月山、市内各所。参加部門は平面・立体・映像、音楽・舞踏・クラフト・その他。
- パフォーマンス、映画鑑賞、ワークショップ、シンポジウム、トークショー、カフェ&ショップ等の要素も入れる。すでに全国で様々なことがされているので、質の良いイベントを入れて差をつけていかなければ、新しい若い作家を惹きつける魅力はないと思う。独創的な芸術イベントを企画しているが、市民とアーティストが対話する機会を多く設ける。市民との交流が前提ということが1つ、参加アーティストが自分の表現の場・スペースを自分で決める。制作の方法、日程を自分でプランニングする。滞在型のスタジオを作り、そこで泊まって制作をする。
- 細河地域での芸術イベントが目的ではない。あくまでも芸術をベースにして、様々な角度から討議する場所として、人間展を捉える。
- 池田市を外から見て、どのようなイメージを描くのか。アーティストやアートにどのようなイメージを抱くのか。アーティストやアートに興味のある人が池田市に行ってみたいと思われるようなまちをめざそう。文化的な質の高い魅力的なまちを想像すると思う。
- 池田市は興味を持つ素材はあると感じている。素材と現実のイベントを繋ぎ活かしていくことで、行ってみたいまちのイメージができるのではないかと。
- 具体的な展開としては「五月山ミュージアムパーク構想（仮称）」グランプリを取った作品を五月山に展示。「ビッグループ構想（仮称）」大きな屋根の下で様々なアートの作成、閲覧、販売などが行われる。「アートフィールド構想（仮称）」池田市全体をギャラリーと見立てる。テーマパーク構想を象徴するようなオブジェをつくる。行ってみたいまちにするには、市民の参加は不可欠。今後の検討事項にさせていただければと思う。

- 「市の有形無形の財産となるような生涯展望を持つ。」市民とアーティストのコラボレーションイベントは、できれば一過性ではない方が良い。ガウディのサグラダファミリアは100年計画で、工事中が見学できるという賢いもの。将来どういうものが出来上がるのか、市民の夢の終着点を描いてほしい。

<意見>

◇総論的意見

- アートを地方創生の題材にしている地域はたくさんあるが、必ずしも成功しているわけではない。域外の発想に自由度を持たせて、実施するのは1つの方法。
- 例として挙げた「六甲ミーツアート」は山全体をひとつのアートに見立てて行う。阪神電鉄が主催しており、長期にわたり続いている。
- 芸術に関しては疎いのだが、観てみたいという気持ちはある。
- 場所は十分にあるが、アーティストと地域住民がどのくらい協力できるのか。
- 細河は場所的には旧小学校やコミュニティセンターに限られてくると思う。五月山の方が人は寄ってきやすいと思う。細河の現在の課題は駐車場が少ないこと。そういった点も考慮していきたい。新しいアートをつくってもらうのはありがたい。
- 神社仏閣は使えないと思うし、旧小学校の校庭や体育館などを提供し、協力することは可能かと思う。
- 若いアーティストは経済的に恵まれていないことも多いので、若いアーティストが来たいと思えるように賞金を付けてあげることも必要かと思う。いわゆる土壌の部分を支えてあげようという考え。
- 制作過程を見せる場や意見交換する場、表彰する場なども緑のモールの一角につくってはどうか。あわよくば取材が来て、知名度が上がることも期待できる。
- 細河のイメージビデオを作ってもらおうという仕事も与えてはどうか。芸術家から見た細河の捉え方は新しいものがあるかもしれない。
- 緑を使っていたらアートは非常に魅力的なので、実現できるよう協力したい。
- 畑の道端を貸せるような場所があれば、そこにアートをつくってもらい、細河のマップをつくってアピールする。ホソカワダファミリアのような場所になれば。
- 巨大な木があるが、ツリーハウスの休憩所を作ってはどうか。
- 池田といえば植木なので植木をテーマにしたい。今の植木のあり方をアートで表現したい。
- 企業がブランドイメージを発信したい時にアーティストを使って通訳をしてもらい世の中に発信する。テーマパークを知ってもらう手段としてのアートという答えが1つある。
- 芸術の「芸」という漢字は、女性が植物を植えるシーンをあらわしたものだ。池田は芸術に近いまちなのではないか。植木の職人は実はものすごい芸術家なのかもしれない。
- テーマパーク構想をやっていく上では、継続してやっていく実行力とストーリーや背景

づくりはとても大事。始まりの合図としての芸術展はタイミング的にはぴったりくると思う。

- 古民家を貸して創作活動をしてもらうなどはあるが、他に地域と連携できるものがあるか。またそれがどのように地域活性化に繋がるのか。教えていただければありがたい。
- 人間展に参加した1人のアーティストがフランスのクレティユで定期的に行われている植物園の写真を送ってきてくれた。家庭で栽培した植物を無料でプレゼントしたり、アーティストが参加して作品を売ったりもする。
- アートを1つの道具として捉えれば良いと思う。
- 現代はものを作る過程からがアート。美術館に行って絵を見ることが芸術という時代ではない。ストーリーがあり、結論があるのがアートである。
- アートは非常に良い話だと思うが、いきなりアートという高尚なものが入ってくると地域の人は凍り付いてしまうと思う。例えば中学・高校の美術教師など身近な人が間に入り、リエゾンのような役割を果たすことで市民参加が可能なのではないか。
- 市民参加の中でも、茶道や華道など日常の芸術アートとの接点が必要なのではないか。
- 一過性ではいけないという点で、アートもインフラとセットで考えなければならないと思う。
- バリ島では長い歴史の中で観光地化されてきたが、見る人や楽しむ人を観光客から入れてきた。外国人であれば、駐輪場・駐車場機能、自転車やバイクの貸し出し、土産商品の開発など、ソフトのイベントと共にハード面での整備も考えなければならない。

8. まとめ・次回に向けての課題共有

- 皆様をお願いしたいのは、地域に持ち帰って建設的な議論していただき、そこで拾い上げた意見を11月にお聞かせいただきたい。次回は11月に開催予定。

以上

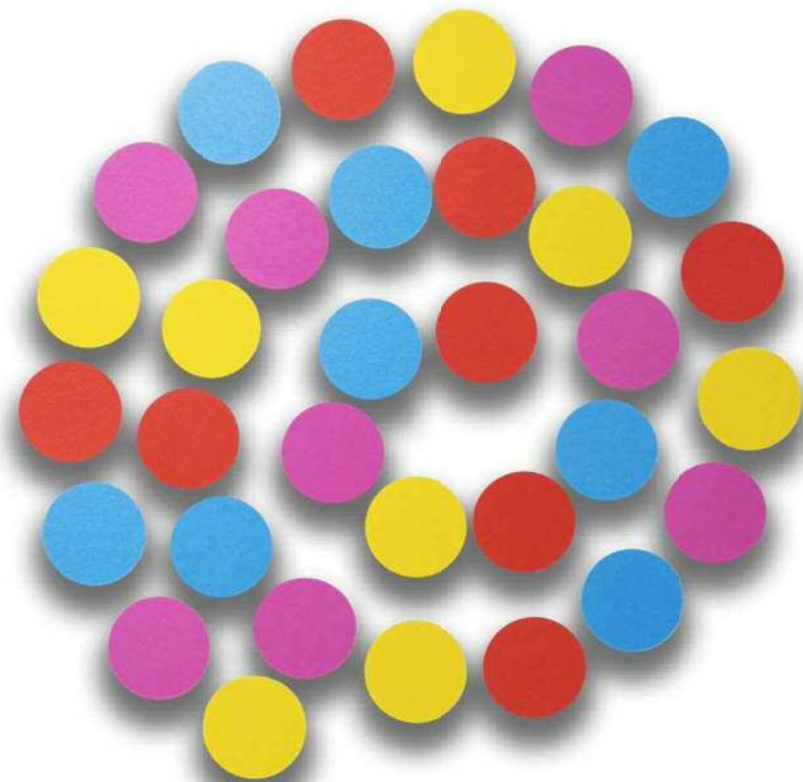
第3回 有識者等懇談会（細河地域）議事次第

日時：11月27日（月）14時～16時

場所：池田市上下水道部庁舎3階研修室

- 1 池田市挨拶
- 2 前回の懇談会の振り返り
- 3 前回の懇談会を受けた地域の声について
- 4 テーマパーク構想のコンセプトについて
- 5 コンセプトカラー・キーワードについてのアンケート&ディスカッション
- 6 これまでの議論のとりまとめについて
- 7 テーマパーク構想とりまとめの今後の流れ

以上



第3回有識者等懇談会 (細河地域)

有限責任監査法人トーマツ
2017年11月27日

本日のアジェンダ

	アジェンダ	
1	池田市挨拶	池田市
2	前回の懇談会の振り返り	トーマツ
3	前回の懇談会を受けた地域の声について	全員
4	テーマパーク構想のコンセプトについて	トーマツ
5	コンセプトカラー&キーワードについてのアンケート&ディスカッション	全員
6	これまでの議論のまとめについて	トーマツ
7	テーマパーク構想とりまとめの今後の流れ	トーマツ

前回の懇談会の振り返り



地域プランや前回までの懇談会を踏まえた内容は以下のとおり理解しています

これまでの懇談会等の内容は全てリンクしていることが以下から理解できます

地域コンセプト	細河の自然を取り入れたまちづくり 若者が住みたくなるまちづくり
地域の強み	・豊かな自然 ・植木産業・園芸技術
現状の具体的な主要課題	にぎわい
目指す目的地	自然とにぎわいの共生
目的地までの主要プロジェクト案	・植木の利活用 ・緑のモール構想 ・大池田展
ターゲット層	若者、ファミリー
懇談会でのキーワード	体験・話題性・コラボレーション ストーリー性

前回の懇談会を受けた地域の声について

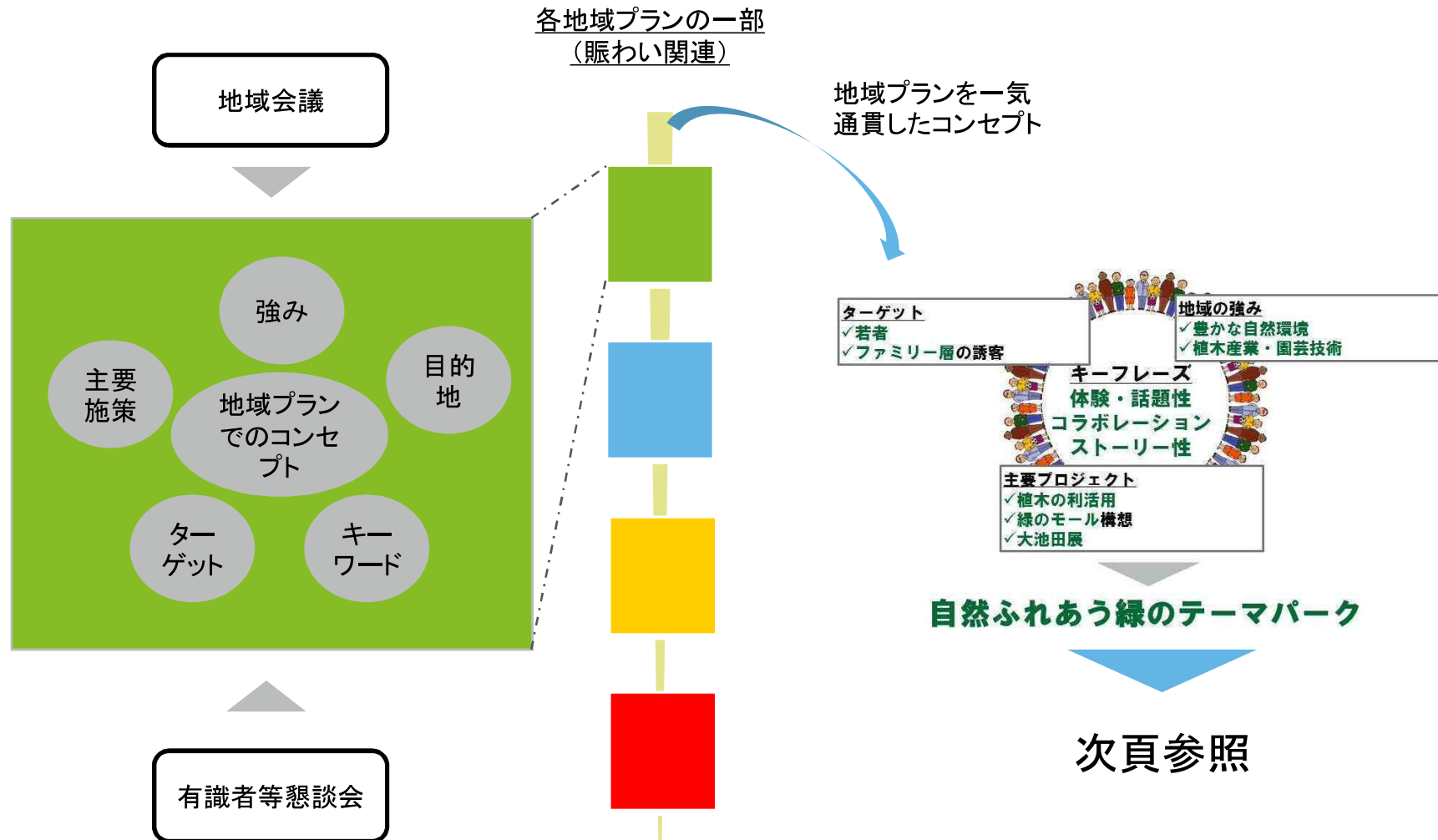


テーマパーク構想のコンセプトについて

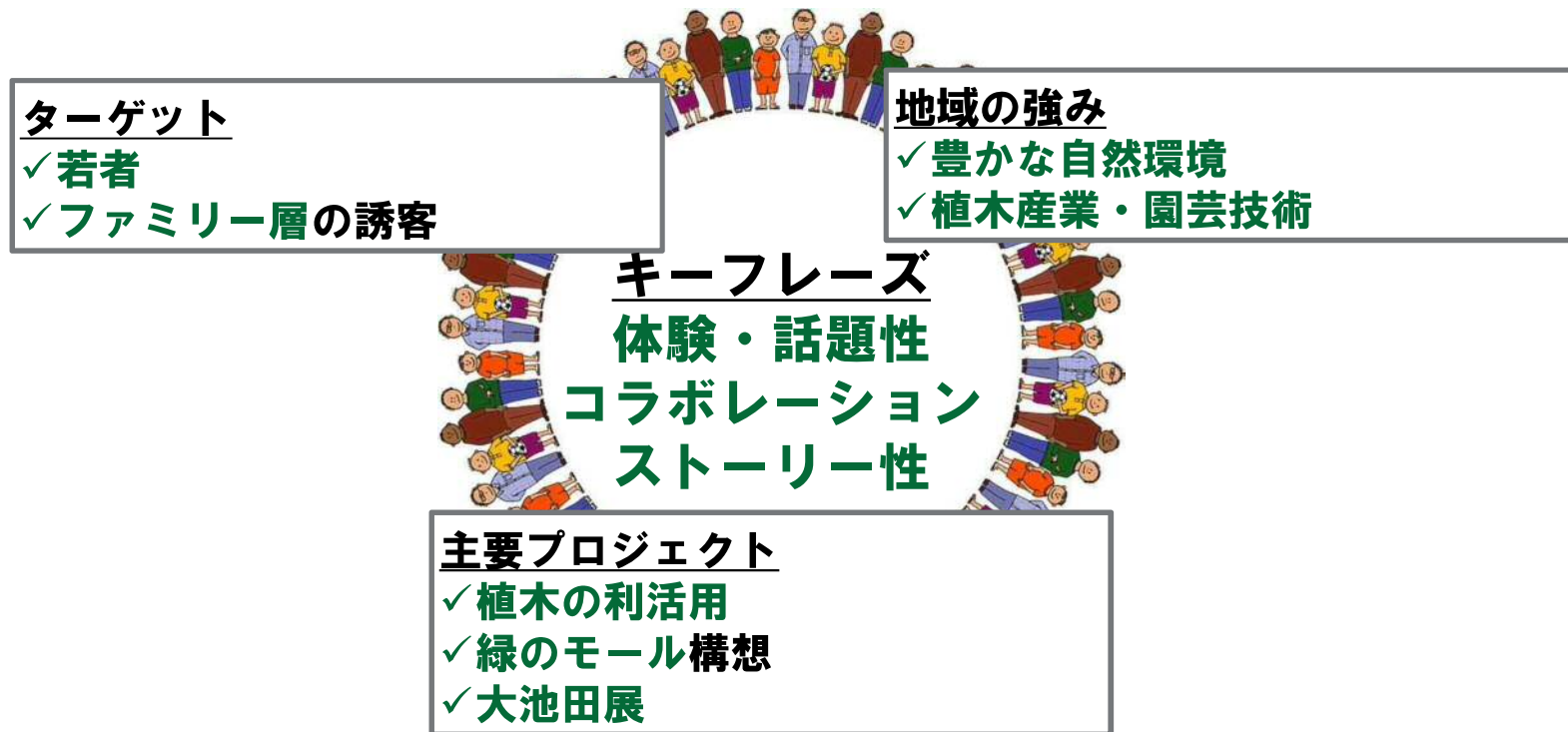


テーマパークとしてのコンセプトの必要性

各地域プランや懇談会をベースに横串を通したテーマパークのコンセプト設定が必要と考えています



細河地域のコンセプト 例



自然ふれあう緑のテーマパーク

テーマパーク構想のコンセプト設定にあたって

テーマパーク構想のコンセプト：
(イメージ)

(検討中)

地域	地域プランコンセプト	テーマパークコンセプト	目指す目的	ターゲット	主要プロジェクト	地域の強み	イメージ	
							日本語	色
池田	ハッピーが近いまち。 池田市。	歩いてまわれる彩りのテーマパーク	観光客の回遊	ファミリー女性	回遊性向上（五月山エリアマネジメント）・商店街活性化（キッサニア）・駅のテーマパーク化	ウォンバット・テーマの多様性・2大観光拠点	たのしむ かんじる みつける	虹色
石橋	子どもと子育て世代が集まる いしばし人が集い交流する愛着のある いしばし	学生にぎわう情熱のテーマパーク	交流の増加	学生子育て世代	地域アプリ・駅前整備計画・商店会の新たな仕組み導入	阪大隣接・地域リーダーの存在	あじわう	深い赤（赤い橋・情熱の石橋）
細河	細河の自然を取り入れたまちづくり 若者が住みたくなるまちづくり	自然ふれあう緑のテーマパーク	自然と賑わいの共生	若者ファミリー	植木の利活用・緑のモール・大池田展	自然・植木産業	ふれあう	緑（自然）
伏尾台	子育てにやさしいまち みんなが住みたくなるまち	こども育む輝きのテーマパーク	定住人口増加	子育て世代高齢者	新たな地域交通・空き家活用・はぐのさと構想	アクティブシニア・コミュニティ力・ほそごう学園の教育	はぐくむ	未定

コンセプトカラー & キーワードについて のアンケート & ディスカッション

これまでの議論のまとめについて



自然ふれあう緑のテーマパーク①



これまでの議論のまとめ

テーマパークの素材へ
～はばたく～

テーマパークの素材へ

- 細河の植木産業を池田全体へ活用することを想定
- 細河の植木と域外とのコラボレーション

細河の起点となる場所へ
～はじまり～

細河の起点となる場所へ

- 地域資源を活かした緑のモール構想を検討
- グランピング・農業体験・サイクリング・植木迷路等、細河の起点となるコンセプトを検討

細河のレガシー創設へ
～つくる～

細河のレガシー創設へ

- 緑を活用したアートイベントを開催することを検討
- 域外のアーティストと地域住民との交流を想定

その他

- 給食センター整備事業
- 旧細河小学校跡地活用
- 企業誘致（新たな地区計画の導入）



自然ふれあう緑のテーマパーク②

テーマパークの素材へ
～はばたく～

めざす方向性

日本で4本の指に入る細河の植木産業。各地域のテーマパークを実現するための重要な素材の1つです。「植木のまち」として池田市全域と細河地域をストーリーで結ぶ素材としての活用をめざします。

細河の起点となる場所へ
～はじまり～

新名神の開通により交通が今後ますます増えると見込まれる細河地域。地域の起点として象徴となる場所の構築を検討します。乱開発を防ぎつつ、自然とにぎわいの共生を感じられる緑をキーコンセプトとした憩いと賑わいの場所をめざします。

細河のレガシー創設へ
～つくる～

「緑×芸術」。細河の地域資源を活かした祭典を地域外のアーティストと連携することで開催を検討します。アーティストと細河の植木のコラボレーションはかたちとして細河のレガシーとなり、歴史ある細河の植木産業の新たな1ページとなることをめざします。



テーマパーク構想とりまとめの 今後の流れについて



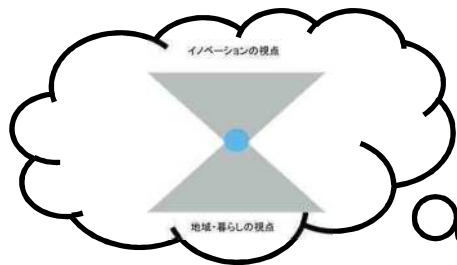
構想実現にあたって考慮する事項とは・・・

持続的にテーマパーク構想を実現させるためには、今後以下のような事項を考慮する必要があると考えます

「10万人総活躍」のできるまちづくりの実現



そのために、市民1人1人がどういった役割を果たすのか・・・



長期的視点(細河地域の未来を考える)
+ 短期的視点(現在の暮らしの充実)

テーマパーク風に言う
とキャスト・クルー

テーマパーク構想は長
期的視点がベースとな
る

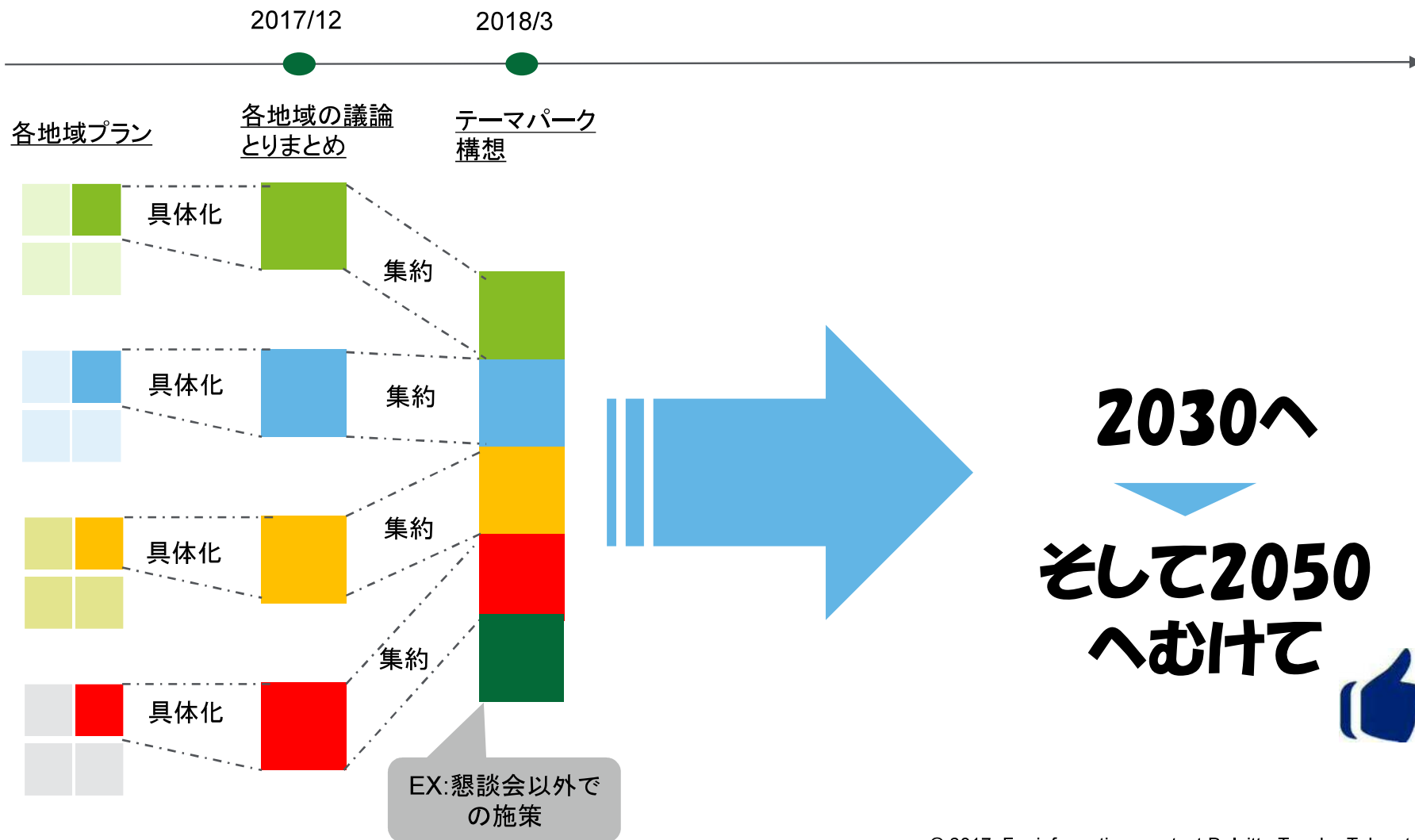


そのためには行政主
導ではなく、民間主
導の持続的仕組みが今
後必要

テーマパークの土台となる市民の役割(ソフト)を
集約し、そこにあるべき姿「ハード」を描く

ソフトをベースとした地
域の意識醸成をベー
スにしなければ失敗に
繋がる恐れ・・・

今後の流れ



デロイト トーマツ グループは日本におけるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(英国の法令に基づく保証有限責任会社)のメンバーファームおよびそのグループ法人(有限責任監査法人トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人およびDT 弁護士 法人を含む)の総称です。デロイト トーマツ グループは日本で最大級のビジネス プロフェッショナル グループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査、税務、法務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー等を提供しています。また、国内約40都市に約9,400名の専門家(公認会計士、税理士、弁護士、コンサルタントなど)を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト(www.deloitte.com/jp)をご覧ください。

Deloitte(デロイト)は、監査、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー サービス、リスク アドバイザリー、税務およびこれらに関連するサービスを、さまざまな業種にわたる上場・非上場のクライアントに提供しています。全世界150を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ、デロイトは、高度に複合化されたビジネスに取り組むクライアントに向けて、深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスをFortune Global 500® の8割の企業に提供しています。“Making an impact that matters”を自らの使命とするデロイトの約245,000名の専門家については、[Facebook](#)、[LinkedIn](#)、[Twitter](#)もご覧ください。

Deloitte(デロイト)とは、英国の法令に基づく保証有限責任会社であるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(“DTTL”)ならびにそのネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびその関係会社のひとつまたは複数を指します。DTTLおよび各メンバーファームはそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTL(または“Deloitte Global”)はクライアントへのサービス提供を行いません。Deloitteのメンバーファームによるグローバルネットワークの詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、その性質上、特定の個人や事業体に具体的に適用される個別の事情に対応するものではありません。また、本資料の作成または発行後に、関連する制度その他の適用の前提となる状況について、変動を生じる可能性もあります。個別の事案に適用するためには、当該時点で有効とされる内容により結論等を異にする可能性があることをご留意いただき、本資料の記載のみに依拠して意思決定・行動をされることなく、適用に関する具体的な事案をもとに適切な専門家にご相談ください。

第3回 有識者等懇談会（細河地域） （議事要旨）

日 時：平成 29 年 11 月 27 日（月）14：00～16：00

場 所：池田市上下水道部庁舎 3 階研修室

出席者：テーマパーク構想ディレクター 西畠清順、堀内健二

地域住民等 5 人

池田市 倉田市長、藤田副市長、総合政策部長、環境部長、都市建設部長、
市民生活部長、管理部長、教育部長

1. 池田市より挨拶

2. 前回の懇談会の振り返り

- 今回の議論をまとめ、テーマパーク構想に落とし込むことを目標にしたい。
- 1、2 回目の懇談会の内容を取りまとめたものに対して、皆様のご意見、また各地域の反応をお聞かせいただきたい。
- 横串となるコンセプトの設定が必要だという認識で、現段階のテーマパーク構想のコンセプトをご紹介したい。コンセプトとなる色とキーワードをアンケートでお答えいただき、皆様の声を反映していきたい。
- 懇談会自体は決定の場として開催されているものではないが、大きな方向性のコンセンサスは得ておきたい。
- 細河未来夢プラン 2030 に基づいて、懇談会を実施しており、地域コンセプトに関しては「細河の自然を取り入れたまちづくり」「若者が住みたくなるまちづくり」が起点となっている。
- 初回に記載いただいたアンケートや地域の方々との対話を基に、地域の強みとして「豊かな自然」「植木産業・園芸技術」を記載させていただいた。これらの強みをどうテーマパーク構想に落とし込んでいくかが重要である。
- 総合計画でも謳われている「自然とにぎわいの共生」が 1 つの目的地であり、目的地までの主要プロジェクト案である「植木の利活用」「緑のモール構想」「大池田展」に関して議論を深めていきたい。
- 重要なのはターゲットであり、誰に向けて細河地域としてのテーマパーク構想を発信していくのか、皆様の意見を伺いたい。現段階では、「若者」「ファミリー」と定めている。新名神が開通することにより、細河地域は車両での利便性が向上し、ファミリーなどが多数訪れるスポットになる可能性を秘めている。ターゲットは全てではあるが、その中でも優先順位をつける必要はあると考えている。
- キーワードに関して、「体験」とは細河で強みを体験できることは重要だと考えている。

「話題性」とは、地域の強みを掛け合わせ、発信していき、どのように差別化を図るかが大切である。「ストーリー性」とは、単に実行するのではなく、細河地域と結ぶストーリー性を持たせることが大切だというお話を西畠氏から頂いた。

3. 前回の懇談会を受けた地域の声について

<意見>

- 道の駅に対して農作物など採ってきた物を並べているイメージだが、採った物を並べるのではなく、例えば柿や植木などを採る体験からしてもらってはどうかという意見が出た。
- 個人的にはきゅうりを植えているが手間もかからず、そのような簡単な物でも良いと思う。四季を通じてローテーションしても良いのではないか。
- キャンプやバーベキューができる施設にして、ファミリーに来てもらえるものにしてはどうかという意見も出た。
- 地域コミュニティ内に共有させていただき、東山町において路地や施設を使った農業体験、ブルーベリーなどの摘み取り園、カモを飼育しふれあえる場を提供するという話を進めていきたいという意見であった。
- 地域に色々なお客様に来ていただき、100円でもお金を落としてもらえることを基本路線として考えたい。
- 棚田が放棄状態なので、棚田の活用を大事に考えたい。
- 緑のモール構想は優れた観点であり、進めていきたいと思う。連合自治会や実行組合のみではできないと考えている。
- 池田市が中心となって、場所の選定などを進めてほしい。
- 現在休耕地も多く、難しい面もあるのではないかという意見もあった。
- 今のままでは細河地区が良くなることはないという危機感を若い人は持っており、話に乗っていかうというスタンスの人が多い。
- 新名神の開通により、来訪者が箕面の方に抜けてしまうと思う。大きなアドバルーンでも上げて、来てもらう仕掛けが必要だと感じている。
- 特に若い女性が来てくれる場所になると、自ずと男性も一緒に足を運んでくれ、また将来子どもを連れて来てくれるような場所になると考えている。
- 若者に住んでもらえるような仕組みづくりが大切だと考えている。農業体験などでノウハウを提供するような仕組みがあると、1つのステップになるかと思う。
- SNSなどで女性の発信力やコミュニケーション力を上手に活用できたら良いと思う。
- ターゲット層を絞ったコンセプトや細河地域のあり方を考え、一方で暮らしの目線も取り入れ、バランスを取っていくことが大切だと思う。
- 地域内で様々な取り組みをしてきたがあまり上手くいっていない。ディレクターの西畠氏が注目されており、池田もブームに乗って西畠氏のブランドを立ち上げたら、注

目してもらえないのではないかという声は多い。

4. テーマパーク構想のコンセプトについて

- テーマパーク構想を取りまとめるにあたり、横串の役割が必要なため、全地域を「○○のテーマパーク」で統一しようと考えている。
- 現状は、細河は「自然」という表現は外せないので、「自然触れ合う緑のテーマパーク」にしている。
- コンセプトを中心に据え、それを共通認識として、各々が何をすべきかを考えていくために、コンセプトは重要だと考える。
- ゆくゆくはテーマパーク構想を皆様の目に触れる冊子の形にしたいと考え、色付けで各地域の特徴を出すためにイメージの色を決めたいと思っている。キーフレーズは現状4文字のひらがなにしているが、特に決まりはない。
- イメージの日本語と色に関して皆様のご意見をアンケートに記載いただきたい。細河に関しては行政とも話をさせていただき、色は緑という認識が強いが、緑は緑でも具体的にどのような緑かも補足いただき、各々の立場からの細河地域を表す色と日本語を伺いたい。

<意見>

- 緑は現状のままなので、「紫」が良いと思った。
- 豊かな川や空の美しさから青というイメージ、そして新名神の開通など国家的な動きの中にあり、新たな産業が生まれる前向きなイメージで赤が浮かび、青と赤を混ぜて「紫」になると考えた。
- 紫は高貴な色で、藤色にも通じ、色遊びとしては良いと考えた。
- 「薄い水色」。綺麗な山から水が生まれ、さらに水が人を育む源になっていき、自然と調和した細河のイメージになっていけばとの思いで、水の色にした。
- 「水色」。余野川の水の色である。
- 各小学校は連合の会で決められた各々違う色のゼッケンを付けているが、細河小学校は水色のゼッケンをつけており、細河のイメージカラーとしても合うと思う。
- 植木＝緑というイメージしか浮かばない。薄い濃い全て含めた緑をイメージした。
- 伏尾台から見たら、客観的に細河は緑だと思う。
- 伏尾台でも若葉の色のイメージで緑という意見が出て、子育てとも噛み合うと考えた。
- 地球が地球である根拠は「グリーン」「水」「大地」である。この3つを細河のコンセプトにしてはどうかと思い、「緑色」「水色」「茶色」ではどうかと考えた。
- キーワードは「体験」「経験」「探検」であり、色々なところを探検していただき、体験することで様々なことを経験していただくという思いがある。
- 川でバーベキュー、野菜の植え付けなどのイメージから水色や緑が出てきたら良いと

は思うが、休耕地や建築業が増えているので「茶色」はどうかと思っている。それらをテーマパーク構想から排除するのではなく、上手くまとめていければと考えている。

- カラーは緑の中でも「若葉色」、キーワードは「いこい」はどうか。田園地帯や苗の色、五月山の若葉色に恋いたいという思いで、キーワードはいこいにした。
- 「水色」。松葉にしずくが溜まっているなど、水滴がかがやくことをイメージした。
- 水滴がかがやく、未来に繋がるということから、キーワードは「かがやく」にした。

5. 倉田市長より挨拶

6. これまでの議論のとりまとめについて

- 「テーマパークの素材へ」とは、他地域との繋がりも踏まえ、地域の強みである植木や園芸技術を上手く利活用していきたいという思いである。現状の植木や細河の伝統をどうすればターゲット層に届けられるのか、またどのような思いを届けたいのかお伺いしたい。
- 今現在作っている植木は植栽に関するものが多い。
- 趣味として扱えるミニ盆栽、他にもどのような植木が求められているかの意見を取り入れ、その方向を伸ばしていくのが良いのではないかと考えている。
- 新しい植木のあり方や見せ方を生み出していくこと、西畠氏とのコラボレーションや域外の方の意見を取り入れていくことが考えられる。
- ターゲット層に植木をどういう思いで届けたいかを伺いたい。

<意見>

- まだまだアピール度が足りていないと思う。
- ITを活用して、広く若い世代の方に見ていただけるような情報を発信していきたい。
- 緑というコンテンツに対する注目度は圧倒的に足りないと思う。花や緑でまちおこしをしたいという自治体はたくさんある。PR方法については、メディアを巻き込んで、一見目立とうとしているのではないかとこのほどインパクトがあることをしつつ、後ろには確固たる植木の歴史や職人がいることを、いかにプレゼンテーションするかが大切だと思う。プレゼンテーションは1回きりではなく、持続的なものである一方で、こけら落としのタイミングは必要だと思う。
- 市が決めた方針に対して、植木を営んでいる方々や直接生活に関わる方々からは反対意見は出ると思う。様々な方がいるとは思いますが、池田市の未来を良くしていきたいという姿勢を強く持って、優しく伝えることが大切だと思う。
- そら植物園で実施した300のプロジェクトでの動員数は100万人を超えていると言われているが、このターゲットにこの植物がうけるという思考回路で実施したわけではない。その時期にそのタイミングで何をしようとしているかを踏まえた上で、コンセ

プトを第一に、その場に元々あったストーリーを大切にし、そのストーリーから繋げることが重要である。

- ターゲット層に対してこの植物というものはないが、ヒントとしては、500年の歴史で培ってきたものであること、ウォンバットがたくさんいることで「オーストラリア」は1つのキーワードになるのではないかと。堀内氏がいらっしゃるので「アート」という切り口で、フォトジェニックな植物が良いのではないかと。
- 「細河の起点となる場所へ」は、細河地域のみでテーマパークのイメージとなっているようなコンセプトも1つ考えられる。新しい見せ方をすることが大切になってくると思う。
- 「細河のレガシー創設へ」は、大池田展のことである。一過性のイベントではなく、創作したものをどのように地域の中に置いていくか、観光スポットやにぎわいの拠点としていくことも考えられる。
- 西畠氏との付き合いもあり、緑に対してこれまで以上に興味を持つようになり、植物とアートの繋がりは深く、細河の個性は植物だと感じている。
- 前例のない、細河の自然を舞台にした植物とアートのミュージアム+スタジオを作ってはどうか。植物とアートが融合する作品は、植木職人とアーティストがコラボレーションすることになる。
- 制作スタジオも細河地域の中に作り、四季の変化に伴い植物が変化していくことで、アートも変化していき、中期長期のことができる。
- 華道や竹細工を嗜む方々に、植物が人を惹きつけるのは何かと聞いた時に、「癒す」「安心する」「和む」「生命を感じる」という答えが多かった。命を「うえる」という意味にも通じることから、テーマを「うえる」にしてはどうか。「うえる」というテーマで様々な角度から細河や池田でアーティストが作品を作ってはどうか。
- ネーミングは大事だと思い「プラント・アート・パーク」や「グリーン&アートミュージアム」などはどうか。
- 植物とアートの融合により、植物の新しい側面を見せていく意味でも、貴重なイベントになるのではないかと考えている。
- アートが完成して終わりではなく、持続性がある発想で良いと思う。
- アートと植木の融合に関して、仕立てた松などは植木職人のセンスが非常に表れやすいものだと思う。
- 国際蘭展なども開催されているが、緑のアート作品を国内海外に広めていくのは夢があって良いと思う。
- 近所の芸術家とやってみようというような形で地域の活性化に繋がれば、おもしろいことができるのではないかと考えている。
- 緑のモールに関して西畠氏に伺いたいが、細河が世界一をめざしていくのに必要なことは何か。既にあるもの（THE FARM など）を真似るのではなく、世界一のコンセプトを

作り上げるにあたり、留意しておくこと、植物の使い方のアイディアなどをお伺いしたい。

- ポイントは「オリジナリティ」「のっかること」の2つであり、相反しているようだが、実はそうではない。
- 「オリジナリティ」に関しては、THE FARM はシドニー郊外のグランズという施設をそのまま真似た例であり、代々木 VILLAGE を作った小林武史氏がグランズというモデルを初めて日本に持ってきた。確かに海外で売れたものを日本に持ってくるというスキームはあるが、池田市に関しては考えない方が良くと思う。池田らしさはぶれない方が良く思う。
- 「のっかること」について、初回の懇談会でアイディアとして出したが、海外と姉妹提携を結ぶというのは1つの方法だと思う。イタリアのピストリアは世界規模の植木の産地であり、ピストリアの植木はフランスのルーブル美術館などにも植えられている。姉妹提携が可能かは政治力も関係してくるとは思うが、例えばピストリアと池田市が姉妹提携をして、イタリアの若者が池田のまちにたくさんいると話題にもなる。コラボレーションするというアイディアにのっかることは良いのではないかと思う。
- 福武総一郎氏も実証されたが、アートには人を集める力、地域活性化に繋がる力があるコンテンツと考える。アート×植木だと池田のオリジナリティが出ると思う。
- 堀内氏を中心として、日本中で活躍しているアーティストの力を借りて行うのは良いと考える。なぜアートなのかと言われたら、「芸」は人が植物を植えるところから出来た象形文字で、アートと植物には密接な関係があるというストーリーがあり、話題にもなり、無理がないのではないかと思う。
- 懇談会に出ている方々は新しいものをつくっていききたい、変えていききたいという強い思いをお持ちだと思うが、土壌を作っていくには地域の方々の理解も必要だと思う。
- 昔から植木業をしているがそこまで考えたことがなかったので、参考になった。今後の展開に関して、今の方向性が見えた気がする。
- 「若者が住みたくなるまち」というのが難しいと思うが、めざさなければいけないところだと感じている。
- アートを活かして、物流等の新産業との結びつき、次世代への承継が非常に大切になってくると思う。
- 先ほど 100 円のお金でも落としてほしいという話があったが、まちづくりは後からお金がついてくるものと思われるが、お金を落としてもらう仕掛けは必要だと思う。
- 西畠氏にもご意見をいただけるという強みもあり、緑のモール構想の道の駅は非常に魅力を感じている。
- 年齢に関係なく、同じ方向を向いているということが大切である。池田のまちづくりで面白い展開が見込めると感じている。

- 4つの地域の中でも、細河は大きな変革を見せてくれると感じており、行政としても腹をくくって取り組みたい。

7. テーマパーク構想とりまとめの今後の流れ

- 新しい地区計画に関しては総合計画で検討されているとのことである。
- テーマパーク構想を取りまとめて、見える化した形で皆様に見ていただく流れになると考えている。構想の作成のみではなく、どのように実現していくかが重要になってくると思う。
- 「10万人総活躍」できるまちづくりがテーマパーク構想のベースであるが、テーマパークである限りは市民の1人1人が主役であり、役割があると考えている。
- 2030年という長期的な視点（細河の未来の視点）と短期的な視点（暮らしの視点）の両方を兼ね備える必要がある。
- 緑のモール構想においても、ソフト事業をベースに、ソフト事業の上にハード事業がのっていきべきだと考えている。そのためには地域の方々の意識をいかに醸成していくかが重要である。行政主体の動きも重要であるが、地域内の議論のブラッシュアップも必要だと考える。
- 3回の懇談会でいただいた各地域の議論を3月までに取りまとめ、行政と調整をし、テーマパーク構想にしていきたい。2050へ向けた考えも入れていきたい。

以上